

主 題：
ローマ人への手紙第 5 章から第 8 章
——聖書の核心

標 語

ローマ第 5 章から第 8 章は聖書の核心と呼ぶことができ、聖書の主題全体を具体的に、また詳細に示しています。「命」と「死」という言葉は、第 5 章から第 8 章で、二つの対照的な路線を形成しています。これは、人が神とサタンとの間の、すなわち命と死との間の、三角の状況にあることを示しています。

わたしたちは苦難の中でキリストを享受するとき、彼の命の中で救われつつあり、神のダイナミックな救いの有機的な目標を完成します。この目標とは、キリストの有機的なからだを生み出し、建造し、諸地方召会において表現することです。そこにおいてわたしたちは主の豊富な恵みを享受し、またそこにおいて平和の神はサタンをわたしたちの足の下に踏み砕き、彼の栄光の表現を得て、彼の勝利を展覧します。

正しいバプテスマを経験した後、キリストの復活の様の中で、わたしたちは続けて彼の中で、また彼と結合して生長します。これが命の新しさの中を歩くことです。

ローマ第 8 章は、三一の神の究極的完成としてのすべてを含む命を与える霊に関してです。この霊は、わたしたちを命、性質、表現において、キリストと完全に同じにならせます。

メッセージ 1

ローマ人への手紙第5章から第8章における命の路線と死の路線

聖書：ローマ 5:10, 12, 14, 17-18, 21. 6:4, 9, 16, 21-23.

7:5, 10, 13, 24. 8:2, 6, 10-11, 38

- ローマ 5:10 というのは、わたしたちが敵であった時に、神の御子の死を通して神に和解させられたからには、和解させられている今、さらにいっそう彼の命の中で救われるからです。
- ローマ 5:12 こういうわけで、一人の人を通して罪がこの世に入り、そして罪を通して死が入ったように、すべての人が罪を犯したために、死がすべての人に及びました。
- ローマ 5:14 しかし、アダムからモーセに至るまで、アダムの違反の様で罪を犯さなかった者をも、死が王として支配しました。アダムは来たるべき方の予表です。
- ローマ 5:17 もし一人の違犯によって、死が一人を通して王として支配したなら、あふれるばかりの恵みとあふれるばかりの義の賜物を受ける者たちは、さらにいっそう一人の方、イエス・キリストを通して、命の中で王として支配します。
- ローマ 5:18 こういうわけで、一度の違犯を通してすべての人に罪定めが及んだように、一度の義なる行為を通して、すべての人に命の義認がもたらされたのです。
- ローマ 5:21 それは、罪が死の中で王として支配したように、恵みもまた義を通して王として支配し、わたしたちの主イエス・キリストを通して永遠の命に至るためです。
- ローマ 6:4 こういうわけで、わたしたちは彼の死の中へとバプテスマされることを通して、彼と共に葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光を通して死人の中から復活させられたように、わたしたちも命の新しさの中を歩くためです。
- ローマ 6:9 そして、キリストが死人の中から復活させられて、もはや死ぬことがなく、死はもはや彼を主人として支配しないことを知っています。
- ローマ 6:16 あなたがたは知らないのですか？ だれかに自分を奴隷としてささげて従順になるなら、あなたがたは自分が従っている者の奴隷であって、死に至る罪の奴隷となるか、あるいは義に至る従順の奴隷となるかです。
- ローマ 6:21 その当時あなたがたは、どんな実を持ったのでしょうか？ 今では、それは恥とする事柄であり、それらの事柄の終局は死です。
- ローマ 6:22 しかし、今やあなたがたは罪から解放され、神の奴隷とされたので、聖別に至る実を持っており、その終局は永遠の命です。
- ローマ 6:23 罪の報酬は死ですが、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにある永遠の命です。
- ローマ 7:5 というのは、わたしたちが肉の中にあつた時、律法を通して活動していた罪の激情は、わたしたちの肢体の中で働いて、死に至る実を結ばせていたからです。
- ローマ 7:10 そして、命に至らせるはずのこの戒めそのものが、死に至らせることをわたしは見いだしました。
- ローマ 7:13 それでは善であるものが、わたしにとって死となったのでしょうか？ 絶対にそうではありません！ それは罪が善であるものを通して、わたしの中に死をもたらすことによって、罪が罪として現れるためであり、罪が戒めを通して、はなはだしく罪深くなるためです。
- ローマ 7:24 何とわたしは苦悩している者でしょう！ だれがこの死の体から、わたしを救い出してく

れるのでしょうか？

- ローマ 8:2 なぜなら、命の霊の法則が、キリスト・イエスの中で、罪と死の法則から、わたしを解放したからです。
- ローマ 8:6 肉に付けた思いは死ですが、霊に付けた思いは命と平安です。
- ローマ 8:10 しかし、キリストがあなたがたの中におられるなら、体は罪のゆえに死んでいても、霊は義のゆえに命です。
- ローマ 8:11 そして、イエスを死人の中から復活させた方の霊が、あなたがたの中に住んでいるなら、キリストを死人の中から復活させた方は、あなたがたの中に住んでいる彼の霊を通して、あなたがたの死ぬべき体にも、命を与えてくださいます。
- ローマ 8:38 なぜなら、死も、命も、天使たちも、支配たちも、現在の事柄も、来たるべき事柄も、力も、

I. ローマ第 5 章から第 8 章は聖書の核心と呼ぶことができ、聖書の主題全体を具体的に、また詳細に示しています：

A. これら二つのかぎとなる言葉（「命」と「死」）は、ローマ第 5 章から第 8 章において繰り返して述べられています。命（5:10, 17-18, 21. 6:4, 22-23. 7:10. 8:2, 6, 10-11, 38）と死（5:12, 14, 17, 21. 6:9, 16, 21, 23. 7:5, 10, 13, 24. 8:2, 6, 10-11, 38）は、第 5 章から第 8 章で、命の路線と死の路線という二つの対照的な路線を形成しています。これは、人が神とサタンとの間の、すなわち命と死との間の、三角の状況にあることを示しています。

ローマ 5:10 というのは、わたしたちが敵であった時に、神の御子の死を通して神に和解させられたからには、和解させられている今、さらにいっそう彼の命の中で救われるからです。

ローマ 5:17 もし一人の違犯によって、死が一人を通して王として支配したなら、あふれるばかりの恵みとあふれるばかりの義の賜物を受ける者たちは、さらにいっそう一人の方、イエス・キリストを通して、命の中で王として支配します。

ローマ 5:18 こういうわけで、一度の違犯を通してすべての人に罪定めが及んだように、一度の義なる行為を通して、すべての人に命の義認がもたらされたのです。

ローマ 5:21 それは、罪が死の中で王として支配したように、恵みもまた義を通して王として支配し、わたしたちの主イエス・キリストを通して永遠の命に至るためです。

ローマ 6:4 こういうわけで、わたしたちは彼の死の中へとバプテスマされることを通して、彼と共に葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光を通して死人の中から復活させられたように、わたしたちも命の新しさの中を歩くためです。

ローマ 6:22 しかし、今やあなたがたは罪から解放され、神の奴隷とされたので、聖別に至る実を持っており、その終局は永遠の命です。

ローマ 6:23 罪の報酬は死ですが、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにある永遠の命です。

ローマ 7:10 そして、命に至らせるはずのこの戒めそのものが、死に至らせることをわたしは見いだしました。

ローマ 8:2 なぜなら、命の霊の法則が、キリスト・イエスの中で、罪と死の法則から、わたしを解放したからです。

ローマ 8:6 肉に付けた思いは死ですが、霊に付けた思いは命と平安です。

ローマ 8:10 しかし、キリストがあなたがたの中におられるなら、体は罪のゆえに死んでいても、霊

は義のゆえに命です。

ローマ 8:11　そして、イエスを死人の中から復活させた方の霊が、あなたがたの中に住んでいるなら、キリストを死人の中から復活させた方は、あなたがたの中に住んでいる彼の霊を通して、あなたがたの死ぬべき体にも、命を与えてくださいます。

ローマ 8:38　なぜなら、死も、命も、天使たちも、支配たちも、現在の事柄も、来たるべき事柄も、力も、

ローマ 5:12　こういうわけで、一人の人を通して罪がこの世に入り、そして罪を通して死が入ったように、すべての人が罪を犯したために、死がすべての人に及びました。

ローマ 5:14　しかし、アダムからモーセに至るまで、アダムの違反の形で罪を犯さなかった者をも、死が王として支配しました。アダムは来たるべき方の予表です。

ローマ 5:17　もし一人の違犯によって、死が一人を通して王として支配したなら、あふれるばかりの恵みとあふれるばかりの義の賜物を受ける者たちは、さらにいっそう一人の方、イエス・キリストを通して、命の中で王として支配します。

ローマ 5:21　それは、罪が死の中で王として支配したように、恵みもまた義を通して王として支配し、わたしたちの主イエス・キリストを通して永遠の命に至るためです。

ローマ 6:9　そして、キリストが死人の中から復活させられて、もはや死ぬことがなく、死はもはや彼を主人として支配しないことを知っています。

ローマ 6:16　あなたがたは知らないのですか？　だれかに自分を奴隷としてささげて従順になるなら、あなたがたは自分が従っている者の奴隷であって、死に至る罪の奴隷となるか、あるいは義に至る従順の奴隷となるかです。

ローマ 6:21　その当時あなたがたは、どんな実を持ったのでしょうか？　今では、それは恥とする事柄であり、それらの事柄の終局は死です。

ローマ 6:23　罪の報酬は死ですが、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにある永遠の命です。

ローマ 7:5　というのは、わたしたちが肉の中にあった時、律法を通して活動していた罪の激情は、わたしたちの肢体の中で働いて、死に至る実を結ばせていたからです。

ローマ 7:10　そして、命に至らせるはずのこの戒めそのものが、死に至らせることをわたしは見いだしました。

ローマ 7:13　それでは善であるものが、わたしにとって死となったのでしょうか？　絶対にそうではありません！　それは罪が善であるものを通して、わたしの中に死をもたらすことによって、罪が罪として現れるためであり、罪が戒めを通して、はなはだしく罪深くなるためです。

ローマ 7:24　何とわたしは苦悩している者でしょう！　だれがこの死の体から、わたしを救い出してくれるのでしょうか？

ローマ 8:2　なぜなら、命の霊の法則が、キリスト・イエスの中で、罪と死の法則から、わたしを解放したからです。

ローマ 8:6　肉に付けた思いは死ですが、霊に付けた思いは命と平安です。

ローマ 8:10　しかし、キリストがあなたがたの中におられるなら、体は罪のゆえに死んでいても、霊は義のゆえに命です。

ローマ 8:11　そして、イエスを死人の中から復活させた方の霊が、あなたがたの中に住んでいるなら、キリストを死人の中から復活させた方は、あなたがたの中に住んでいる彼の霊を通して、あなたがたの死ぬべき体にも、命を与えてくださいます。

ローマ 8:38 なぜなら、死も、命も、天使たちも、支配たちも、現在の事柄も、来たるべき事柄も、力も、

B. 命の木と知識の木（死の木）は、二つの路線をもたらします。それは、命の路線と死の路線であり、聖書全体を貫いており、啓示録において終わります。命は、命の木をもって始まり（創 2:9）、命の水の都である新エルサレムをもって終わり、命の木（啓 22:1-2）と命の光（21:23、22:5）と命の栄光（21:10-11, 23）を伴っています。死は、知識の木をもって始まり（創 2:17）、火の池をもって終わります（啓 20:10, 14）。

創 2:9 エホバ・神はその土地から、見て喜ばしく、食べるのに良い、すべての木を生えさせ、さらに園の中央に命の木と、善悪知識の木とを生えさせられた。

啓 22:1 また御使いは、水晶のように輝く命の水の川をわたしに見せた。それは神と小羊の御座から、大通りの中央を流れていた。

啓 22:2 その川のこちら側にも向こう側にも命の木があつて、十二種の実を結び、その実は毎月みどり、その木の葉は諸国民のいやしのためにある。

啓 21:23 都の中では、太陽も月も輝く必要がない。神の栄光がそれを照らし、小羊がそのともし火だからである。

啓 22:5 夜はもはやない。彼らにはともし火の光も太陽の光も必要がない。主なる神が彼らを照らすからである。そして彼らは永遠にわたって王として支配する。

啓 21:10 そして彼はわたしを霊の中で、大きな高い山へ連れて行き、聖なる都エルサレムが、天から出て神から下って来るのをわたしに見せたが、

啓 21:11 それは神の栄光を持っていた。その光は最も尊い宝石のようであり、水晶のように透明な碧玉のようであった。

啓 21:23 都の中では、太陽も月も輝く必要がない。神の栄光がそれを照らし、小羊がそのともし火だからである。

創 2:17 ただし、善悪知識の木からは、食べてはならない。それから食べる日に、あなたは必ず死ぬ。

啓 20:10 そして彼らを欺いた悪魔は、火と硫黄の池の中へと投げ込まれた。そこには獣も偽預言者もいた。彼らは昼も夜も、永遠にわたって苦しめられるのである。

啓 20:14 また死とハデス〔陰府〕が火の池の中へと投げ込まれた。この火の池が、第二の死である。

C. 命の木を食べること、すなわち、キリストをわたしたちの命の供給として享受することは、召会生活の主要な事柄であるべきです（創 2:9, 16. 啓 2:7）。召会生活の内容は、キリストの享受にかかっています。わたしたちが彼を享受すればするほど、その内容はますます豊富になります。

創 2:9 エホバ・神はその土地から、見て喜ばしく、食べるのに良い、すべての木を生えさせ、さらに園の中央に命の木と、善悪知識の木とを生えさせられた。

創 2:16 そして、エホバ・神はその人に命じて言われた、「あなたは、園のどの木からでも自由に食べてよい。

啓 2:7 耳のある者は、その霊が諸召会に言われることを聞くがよい。勝利を得る者には、神のパラダイスにある命の木から食べさせよう』。

D. しかし、キリストを享受するには、わたしたちが初めの愛をもって彼を愛することが必要となります。もしわたしたちが主に対する初めの愛を離れるなら、キリストに対する享受を失い、イエスの証しを失います。その結果、燭台はわたしたちから除き去られます——啓 2:4-7。

啓 2:4 しかし、わたしには、あなたを責めるべき事が一つある。あなたは初めの愛を離れてしまった。

啓 2:5 そこで、あなたはどこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、初めのわざを行ないなさい。しかし、そうしないなら、わたしはあなたの所へ行く。そして、もしあなたが悔い改めないなら、あなたの燭台をその所から除き去る。

啓 2:6 しかし、あなたにはこのこともある。あなたはニコライの者たちのわざを憎んでおり、わたしも憎んでいる。

啓 2:7 耳のある者は、その霊が諸召会に言われることを聞くがよい。勝利を得る者には、神のパラダイスにある命の木から食べさせよう』。

E. 初めの愛を回復することは、すべての事で主イエスを第一と考えることです。わたしたちがキリストを自分の生活の中ですべてとするなら、これは、わたしたちが初めの愛を失うことに勝利したことを意味します——コロサイ 1:18 後半、ヨハネ 14:21, 23、詩 90:1、91:1、ピリピ 3:13-14。

コロ 1:18 そして御子は、召会であるからだのかしらです。彼は初めであり、死人の中から最初に生まれた方です。それは彼ご自身が、万物のうちで第一位となるためです。

ヨハネ 14:21 わたしの戒めを持ち、それを守る者は、わたしを愛する者である。わたしを愛する者は、わたしの父に愛される。わたしも彼を愛して、わたし自身を彼に現す」。

ヨハネ 14:23 イエスは彼に答えて言われた、「だれでもわたしを愛する者は、わたしの言を守る。そしてわたしの父は彼を愛され、わたしたちは彼の所へ行つて、彼と共に住まいを造る。

詩 90:1 主よ、あなたはすべての世代にわたつて、わたしたちの住まいです。

詩 91:1 いと高さ方の隠れ場の中に住む者は、全能者の陰に宿っている。

ピリピ 3:13 兄弟たちよ、わたしはまだ自分自身、捕らえたとは思っていません。ただ一つの事、すなわち、後ろにあるものを忘れて、前にあるものに向かって体を伸ばしつつ、

ピリピ 3:14 キリスト・イエスの中でわたしを上を召して下さった神の賞を得るために、目標に向かって追い求めています。

F. エペソに在る召会への主の語りかけは、英語の「L」の文字で始まる四つの重要な言葉で要約することができます。それは「愛 (love)」、「命 (life)」、「光 (light)」、「燭台 (lampstand)」です。わたしたちはあらゆる面において、またあらゆる事において、主イエスに首位を与えて、初めの愛を回復しなければなりません。そうすれば、わたしたちは彼を命の木として享受します。そして、この命は直ちに命の光となります (ヨハネ 8:12)。そうすれば、わたしたちは、日常生活の中で団体的に燭台として輝きます (啓 2:1-7)。

ヨハネ 8:12 こうして、イエスは再び彼らに語つて言われた、「わたしは世の光である。わたしに従う者は、決して暗やみの中を歩くことがなく、命の光を持つ」。

啓 2:1 「エペソに在る召会の使者に書き送りなさい。『右の手に七つの星を持つ者、七つの金の燭台のただ中を歩いている者が、こう言われる。

啓 2:2 わたしは、あなたのわざと労苦と忍耐とを知っている。また、あなたが邪悪な者たちを容認できないことも知っている。あなたは、使徒と自称しているがそうではない者たちを試して、彼らが偽りであることを見抜いた。

啓 2:3 あなたは忍耐を持ち、わたしの名のためにすべての事を耐え忍んで、疲れ果てることがなかった。

啓 2:4 しかし、わたしには、あなたを責めるべき事が一つある。あなたは初めの愛を離れてしまった。

啓 2:5 そこで、あなたはどこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、初めのわざを行ないなさい。しか

し、そうしないなら、わたしはあなたの所へ行く。そして、もしあなたが悔い改めないなら、あなたの燭台をその所から除き去る。

啓 2:6 しかし、あなたにはこのこともある。あなたはニコライの者たちのわざを憎んでおり、わたしも憎んでいる。

啓 2:7 耳のある者は、その霊が諸召会に言われることを聞くがよい。勝利を得る者には、神のパラダイスにある命の木から食べさせよう』。

G. 悪しき者どもの邪悪な状態は、彼らが主に来て主を食べ享受することをしないことです（参照、イザヤ 55:1-2, 6-7. 57:20-21）。彼らは多くの事を行ないませんが、来て主と接触することをせず、彼を取らず、彼を受けず、彼を味わわず、彼を享受しません。神の目に、これほど邪悪なことはありません（エレミヤ 2:13）。

イザヤ 55:1 さあ！ 渇いている者はみな水に来なさい。あなたがた銀のない者も。来なさい。買って食べなさい。来て、銀を出さず無代価で、ぶどう酒と乳を買いなさい。

イザヤ 55:2 なぜ、あなたがたは糧でもないもののために銀を費やし、満足させないもののために労苦するのか？ 聞け、わたしに聞け、良いものを食べ、あなたがたの魂を脂肪で楽しませよ。

イザヤ 55:6 見いだされるうちに、エホバを尋ねよ。近くにおられるうちに、彼を呼び求めよ。

イザヤ 55:7 悪しき者は自分の道を捨て、悪を行なう者は自分の思いを捨てよ。エホバに帰れ。そうすれば彼は深く同情してくださる。わたしたちの神に帰れ。まことに、彼は豊かに担って赦して下さるからである。

イザヤ 57:20 しかし、悪しき者どもは荒れ狂う海のように。まことに、静まることができず、その水はぬかるみと泥を吐き出す。

イザヤ 57:21 「悪しき者には平安がない」と、わたしの神は言われる。

エレ 2:13 まことに、わたしの民は二つの悪事を犯したからである。彼らはわたし、この生ける水の源泉を捨てて、自分たちのために水ため、水をためることがない壊れた水ためを掘ったのだ。

II. 今日、信者は、小規模なエデンの園であり、霊の中に命の木としての神を持っており、肉の中に知識の木としてのサタンを持っており、彼の思いが中間にあります。わたしたちは、霊にいるか肉にいるかのどちらかです。わたしたちがいるべき第三の場所はありません。こういうわけで、わたしたちは思いを霊に付けなければならないのです——ローマ 8:6：

ローマ 8:6 肉に付けた思いは死ですが、霊に付けた思いは命と平安です。

A. 人の体は本来、純粋なものでしたが、人の墮落を通して、サタンが彼自身を人の中へと注入し、人の体は肉となりました——創 3:6. ローマ 7:18 前半：

創 3:6 そこで、女を見ると、その木は食べるのに良く、目に喜ばしく、その木は賢くなるのに好ましかったので、彼女はその実を摘み取って食べた。彼女はまた一緒にいた夫に与えたので、夫も食べた。

ローマ 7:18 わたしは自分の中に、すなわち、自分の肉の中に、善なるものが住んでいないことを知っています。なぜなら、わたしは善をしようと欲するのですが、善を行ない出すことはないからです。

1. わたしたちの体は「罪の体」（6:6）また「この死の体」（7:24）です。罪の体は、神に対して罪を犯すことではとても活発で、力に満ちています。しかし、この死の体は、神を喜ばせるために活動することにおいては弱く、無能です（18 節）。

ローマ 6:6 わたしたちは次のことを知っています。わたしたちの古い人が彼と共に十字架につけられたのは、罪の体が無効にされて、わたしたちがもはや、罪に奴隷として仕えることがないため

です。

ローマ 7:24 何とわたしは苦悩している者でしょう！ だれがこの死の体から、わたしを救い出してくれるのでしょうか？

ローマ 7:18 わたしは自分の中に、すなわち、自分の肉の中に、善なるものが住んでいないことを知っています。なぜなら、わたしは善をしようと欲するのですが、善を行ない出すことはないからです。

2. わたしたちがまだ生きている限り、わたしたちの贖いの日まで、罪と死の体は常にわたしたちと共にあります——参照、8:23。

ローマ 8:23 そればかりではなく、その霊の初穂を持つわたしたち自身も、自らの内でうめきながら、子たる身分、すなわち、わたしたちの体の贖いを、熱心に待ち望んでいるのです。

3. 肉は、罪と死とサタンとの「集会所」また複合体です。肉には望みはなく、決して改良されることができません——7:17-18, 21. 参照、ヨハネ 17:15。

ローマ 7:17 ですから、それを行ない出しているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪です。

ローマ 7:18 わたしは自分の中に、すなわち、自分の肉の中に、善なるものが住んでいないことを知っています。なぜなら、わたしは善をしようと欲するのですが、善を行ない出すことはないからです。

ローマ 7:21 そこでわたしは、善を行なおうと欲しているわたしに、悪が共にあるという法則を見いだします。

ヨハネ 17:15 わたしがお願いするのは、あなたが彼らを世から取り去ることではなく、彼らをあの邪悪な者から守ってくださることです。

B. 神のエコノミーのために、神は彼の知恵と主権の中で、わたしたちの罪深く醜い肉を用いて、わたしたちを強いてわたしたちの霊に戻らせます。それはわたしたちが、わたしたちの中での神の増し加わりによって、神の建造のためにさらに多くその霊を獲得するためです——コロサイ 2:19. ゼカリヤ 4:6 :

コロ 2:19 かしらに結び付いていないのです。この方から、からだ全体は、節と筋によって豊かに供給され、結合され、神の増し加わりによって成長するのです。

ゼカ 4:6 すると、彼はわたしに答え、話して言った、「これは、ゼルバベルに対するエホバの言葉です。それはこう言います、『権力によらず、能力によらず、わたしの霊による』と、万軍のエホバは言われます。

1. 法理的に言えば、サタンとわたしたちの肉は十字架上で一度で永遠に罪定めされましたが（ローマ 8:3. ヨハネ 3:14. ヘブル 2:14. II コリント 5:21）、神は肉がわたしたちにとどまることを許し、肉がわたしたちを助け、わたしたちを強いて、霊の中のキリストに戻らせ、わたしたちがもはや肉を頼みとしないようにします（ピリピ 3:3）。

ローマ 8:3 律法が肉のゆえに弱くて、なし得なかったので、神は、ご自身の御子を罪の肉の形で、罪のために遣わし、肉において罪を罪定めされました。

ヨハネ 3:14 そして、モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければならない。

ヘブル 2:14 こういうわけで、子供たちが血と肉にあずかっているのです。同様に彼ご自身も同じものにあずかられたのです。それは、彼が死を通して、死の権能を持つ者、すなわち悪魔を滅ぼすためであり、

II コリ 5:21 神は罪を知らなかった方を、わたしたちに代わって罪とされました。それは、わたした

ちが彼の中で神の義となるためです。

ピリピ 3:3 なぜなら、わたしたちこそ割礼の者であり、神の霊によって仕え、キリスト・イエスの中で誇り、肉を頼みとしていないからです。

2. 罪深く醜い肉による助けがないなら、わたしたちは必死になって主を獲得しようとせず、また彼がわたしたちの中へと造り込まれるようにしないでしよう——ローマ 7:24-25. 8:2, 6, 13。

ローマ 7:24 何とわたしは苦悩している者でしょう！ だれがこの死の体から、わたしを救い出してくれるのでしょうか？

ローマ 7:25 わたしたちの主イエス・キリストを通して、神に感謝します！ このように、わたし自身、思いでは神の律法に仕えていますが、肉では罪の法則に仕えているのです。

ローマ 8:2 なぜなら、命の霊の法則が、キリスト・イエスの中で、罪と死の法則から、わたしを解放したからです。

ローマ 8:6 肉に付けた思いは死ですが、霊に付けた思いは命と平安です。

ローマ 8:13 なぜなら、もし肉にしたがって生きるなら、あなたがたは死ななければならないからです。しかし、その霊によって体の行ないを死に渡すなら、あなたがたは生きます。

3. わたしたちの目標は、聖別や霊性や勝利であるかもしれませんが、神の目標は、ご自身をわたしたちの中へと造り込んで、わたしたちを栄光なものにすることです。しばしばわたしたちは困難な状況にあるとき、さらに主に開き、さらに進んで彼に立ち返り、彼にご自身をわたしたちの中へと造り込んでいただくようになります——28-29 節. エペソ 5:27。

ローマ 8:28 また神を愛する者、すなわち、彼の目的にしたがって召されている者たちには、すべてが共に働いて益となることを、わたしたちは知っています。

ローマ 8:29 なぜなら、神はあらかじめ知っておられた者たちを、御子のかたちに同形化しようと、あらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの間で長子となるためです。

エペソ 5:27 またそれは、しみやしわや、そのようなものが何もなく、聖くて傷のない栄光の召会を、彼がご自身にささげるためです。

4. わたしたちが彼を追い求めるなら、肉という罪深い複合体でさえ、主を獲得することにおいてわたしたちの助けとなります。わたしたちは頻繁に失敗するので、必死になって霊に戻るのです。そうすれば、このようにして、わたしたちはさらに多くその霊を獲得します——参照、出 23:23, 29-30. 士 2:21—3:4。

出 23:23 わたしの御使いがあなたの前を行き、あなたをアモリ人とヘテ人とペリジ人とカナン人、ヒビ人とエブス人の所にもたらすとき、わたしは彼らを断ち切る。

出 23:29 わたしは彼らを一年のうちに、あなたの前から追い払うのではない。そうでないと地は荒れ果て、野の獣があなたに敵対して増えるからである。

出 23:30 わたしは少しずつ彼らをあなたの前から追い払い、ついにはあなたは増え広がって、その地を受け継ぐ。

士 2:21 それゆえ、わたしは、ヨシユアが死んだ時に残した諸国民を、もはや彼らの前から追い払うことをしない。

士 2:22 それは、父祖たちが守ったようにエホバの道を守って、イスラエルがその中を歩むかどうか、これによって彼らを試みるためである」。

士 2:23 こうして、エホバはこれらの諸国民を直ちに追い払わないで残しておき、ヨシユアの手には渡されなかったのである。

士 3:1 エホバが次の諸国民を残しておかれたのは、カナンの子供たちの戦いを全く知らないすべてのイスラエルを試みるためである。

士 3:2 しかし、ただイスラエルの子供たちの各世代で、少なくともこれまでに戦いを知らない者たちに、戦うことを学ばせ知らせるためであった。

士 3:3 残しておかれたのは、ペリシテ人の五人の領主とカナン人のすべてとシドン人と、バアル・ヘルモン山からハマテの入り口までの、レバノン山に住んでいたヒビ人であった。

士 3:4 彼らがイスラエルを試みたのは、エホバがモーセを通して父祖たちに命じられた命令に、イスラエルが聞き従うかどうかを知るためであった。

5. わたしたちの困難、敗北、失敗、落胆はわたしたちを強いて、肉には望みがないことを認識させます。肉が役立つのはただ、わたしたちを強いて霊の中のキリストに戻らせ、わたしたちを霊の中へと押し込み、必死になって霊の中へと入らせ、目を覚まして霊の中にとどまるようにさせるということだけです——マタイ 26:41. エペソ 6:17-18。

マタイ 26:41 誘惑に陥らないように、目を覚まして祈っていなさい。霊は強く願っていても、肉は弱いのである」。

エペソ 6:17 また救いのかぶとを受け取りなさい。さらにその霊の剣、すなわちその霊である神の言葉を、

エペソ 6:18 すべての祈りと願い求めによって受け取りなさい。どんな時にも霊の中で祈り、すべての聖徒のために根気と願い求めの限りを尽くし、このために目を覚ましていなさい。

6. 主は、わたしたちが勝利を得るかどうかには注意していません。主はただ一つの事だけに注意しています。それは、わたしたちが思いを霊に付けることによって、その霊としてのキリストを獲得することです——ピリピ 3:8. II コリント 3:17-18. ローマ 8:6。

ピリピ 3:8 しかしさらに、わたしはまた、わたしの主キリスト・イエスを知る知識の卓越性のゆえに、すべての事を損失であると勘定します。その方のゆえに、わたしはすべての事で損失を被りましたが、それらをちりあくと勘定します。それは、わたしがキリストを獲得するためであり、

II コリ 3:17 そして主はその霊です。そして主の霊のあるところには、自由があります。

II コリ 3:18 しかし、わたしたちはみな、主の栄光をおおいのない顔をもって、鏡のように見つめ、そして反映して、栄光から栄光へ、主と同じかたちへと徐々に造り変えられていきますが、それはまさに主なる霊からです。

ローマ 8:6 肉に付けた思いは死ですが、霊に付けた思いは命と平安です。

Ⅲ. わたしたちは、ローマ第 5 章ではアダムの中におり、第 6 章ではキリストの中におり、第 7 章では肉の中におり、第 8 章では霊の中にいます。第 5 章のアダムは第 7 章の肉の中で経験され、第 6 章のキリストは第 8 章の霊の中で経験されます：

A. わたしたち、キリストにある信者は、キリストの死を通してアダムから出て、キリストの復活を通してキリストの中へと、事実においても地位においても移されています——6:3-8：

ローマ 6:3 それとも、キリスト・イエスの中へとバプテスマされたわたしたちはみな、彼の死の中へとバプテスマされたことを、あなたがたは知らないのですか？

ローマ 6:4 こういうわけで、わたしたちは彼の死の中へとバプテスマされることを通して、彼と共に葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光を通して死人の中から復活させられたように、わたしたちも命の新鮮さの中を歩くためです。

ローマ 6:5 もしわたしたちが、彼の死の様の中で彼と結合して生長したなら、彼の復活の様の中でも彼と結合して生長するのです。

ローマ 6:6 わたしたちは次のことを知っています。わたしたちの古い人が彼と共に十字架につけられたのは、罪の体が無効にされて、わたしたちがもはや、罪に奴隷として仕えることがないためです。

ローマ 6:7 なぜなら、死んだ者は罪から解放されているからです。

ローマ 6:8 さて、わたしたちがキリストと共に死んだのなら、わたしたちはまた、彼と共に生きることを信じます。

1. アダムの中で、わたしたちは罪を受け継ぎました。その罪は、わたしたちを罪人に構成しています (5:12 前半, 19 前半)。アダムの中で、わたしたちは死を受け継ぎました。その死は一方で、わたしたちを弱くして、神を喜ばせる事をできなくさせ、もう一方で、わたしたちを王として支配しています (12 後半, 14 前半, 17 節前半)。またアダムの中で、わたしたちは律法の下で死に至る罪定めを受け継ぎました (16 節前半)。

ローマ 5:12 こういうわけで、一人の人を通して罪がこの世に入り、そして罪を通して死が入ったように、すべての人が罪を犯したために、死がすべての人に及びました。

ローマ 5:19 一人の人の不従順を通して、多くの人が罪人に構成されたように、一人の方の従順を通して、多くの人が義なるものに構成されます。

ローマ 5:12 こういうわけで、一人の人を通して罪がこの世に入り、そして罪を通して死が入ったように、すべての人が罪を犯したために、死がすべての人に及びました。

ローマ 5:14 しかし、アダムからモーセに至るまで、アダムの違反の様で罪を犯さなかった者をも、死が王として支配しました。アダムは来たるべき方の予表です。

ローマ 5:17 もし一人の違犯によって、死が一人を通して王として支配したなら、あふれるばかりの恵みとあふれるばかりの義の賜物を受ける者たちは、さらにいっそう一人の方、イエス・キリストを通して、命の中で王として支配します。

ローマ 5:16 また無代価の賜物は、罪を犯した一人を通してのようではありません。なぜなら、裁きは一度の違犯から罪定めに至ったのですが、恵みの賜物は、多くの違犯から義認に至るからです。

2. キリストの中で、わたしたちは以下の賜物を受けました。すなわち、義と、命と、恵みの中で命に至る義認を受けました。この命の中で、わたしたちは恵みと共に王として支配し、万物を治めます——17 節後半, 18 節後半, 21 節。

ローマ 5:17 もし一人の違犯によって、死が一人を通して王として支配したなら、あふれるばかりの恵みとあふれるばかりの義の賜物を受ける者たちは、さらにいっそう一人の方、イエス・キリストを通して、命の中で王として支配します。

ローマ 5:18 こういうわけで、一度の違犯を通してすべての人に罪定めが及んだように、一度の義なる行為を通して、すべての人に命の義認がもたらされたのです。

ローマ 5:21 それは、罪が死の中で王として支配したように、恵みもまた義を通して王として支配し、わたしたちの主イエス・キリストを通して永遠の命に至るためです。

B. わたしたち、キリストにある信者は、実行上の経験的な移行を持ちます。すなわち、わたしたちはキリストと共に十字架につけられることを通して (6:6. ガラテヤ 2:20)、肉 (実行上の経験的なアダム) から移し出されて、命の霊の法則としてのキリストとの有機的な結合を通して (ローマ 8:2, 16 節前半. I コリント 6:17)、その霊 (実行上の経験的なキリスト) の中へと移し入れられます。

ローマ 6:6 わたしたちは次のことを知っています。わたしたちの古い人が彼と共に十字架につけら

れたのは、罪の体が無効にされて、わたしたちがもはや、罪に奴隷として仕えることがないためです。

ガラ 2:20 わたしはキリストと共に十字架につけられました。生きているのはもはやわたしではありません。キリストがわたしの中に生きておられるのです。そしてわたしは今、肉体の中で生きているその命を、わたしを愛し、わたしのためにご自身を捨ててくださった神の御子の信仰の中で生きるのです。

ローマ 8:2 なぜなら、命の霊の法則が、キリスト・イエスの中で、罪と死の法則から、わたしを解放したからです。

ローマ 8:16 その霊ご自身、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子供たちであることを、証ししてくださいます。

I コリ 6:17 しかし、主に結合される者は、主と一つ霊になります。

C. キリストご自身は神の命、永遠の命です（ヨハネ 14:6 前半、11:25、I ヨハネ 1:2）。彼が来たのは、わたしたちが命を得、しかも豊かに得るためです（ヨハネ 10:10 後半）。彼が命を解き放つ死を遂げて、命を分与する復活の中へと入り（12:24）、命を与える霊と成って（I コリント 15:45 後半）、命の霊の法則として（ローマ 8:2）、わたしたちの霊、思い、死ぬべき体に命を与えるのは、わたしたちが命によって飲み尽くされて、他の人に命を供給する者となるためです（10、6、11 節、II コリント 5:4、I ヨハネ 5:16 前半、ヨハネ 6:63、使徒 5:20）。

ヨハネ 14:6 イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、実際であり、命である。わたしを通してでなければ、だれも父に来ることはない。

ヨハネ 11:25 イエスは彼女に言われた、「わたしは復活であり、命である。わたしの中へと信じる者は、たとえ死んでも生きる。

I ヨハ 1:2 （この命が現れました。わたしたちはこの永遠の命を見たので、あなたがたに証しをし、また伝えていますが、この永遠の命は御父と共にいましたが、わたしたちに現れたのです）。

ヨハネ 10:10 盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかならない。わたしが来たのは、羊が命を得、しかも豊かに得るためである。

ヨハネ 12:24 まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それは一粒のままである。しかし、それが死んだなら、多くの実を結ぶ。

I コリ 15:45 そこで、「最初の人、アダムは、生きた魂と成った」と書かれていますが、最後のアダムは、命を与える霊と成ったのです。

ローマ 8:2 なぜなら、命の霊の法則が、キリスト・イエスの中で、罪と死の法則から、わたしを解放したからです。

ローマ 8:10 しかし、キリストがあなたがたの中におられるなら、体は罪のゆえに死んでいても、霊は義のゆえに命です。

ローマ 8:6 肉に付けた思いは死ですが、霊に付けた思いは命と平安です。

ローマ 8:11 そして、イエスを死人の中から復活させた方の霊が、あなたがたの中に住んでいるなら、キリストを死人の中から復活させた方は、あなたがたの中に住んでいる彼の霊を通して、あなたがたの死ぬべき体にも、命を与えてくださいます。

II コリ 5:4 さらに、この幕屋の中にいるわたしたちが、重荷を負わされながらうめくのは、脱がされることを願うからではなく、着せられることを願うからです。それは死ぬべきものが、命によって飲み尽くされるためです。

I ヨハ 5:16 だれでも自分の兄弟が、死に至らない罪を犯しているのを見たなら、その人は祈り求め

るべきです。そうすれば、彼はその人に、死に至らない罪を犯している人たちに、命を与えます。死に至る罪があります。それについて祈り求めるべきであるとは、わたしは言いません。

ヨハネ 6:63 命を与えるのはその霊である。肉は何の役にも立たない。わたしがあなたがたに語った言葉は霊であり、命である。

使徒 5:20 「行って宮の中に立ち、民衆にこの命の言葉をすべて語りなさい」。

IV. わたしたちは命の路線にとどまるために、命の木としてのキリストを享受する道を取らなければなりません。以下のリー兄弟の極めて重要な交わりを参照してください：

命の木としてのキリストを享受する道を取る――

リー兄弟からの極めて重要な交わり

「1943年5月……わたしは深刻な結核に感染しました。……わたしは二年半のわたしの病の期間に、命の木を見ました。その二年半にわたしは、主の回復において、また主の働きにおいて、わたしたちが命に欠けていることを見ました。あらゆる種類の問題は、それが何であっても、命の不足の結果です。わたしはこのことを見た時、非常に後悔し、主の御前で多く告白し、徹底的な悔い改めを持ち、また主の御前で多くの対処を持ちました。……命の木についてのメッセージは、南京において多くの聖徒たちを救い、また多くの兄弟姉妹を解放しました。上海に在る召会における四年間の騒動のゆえに、聖徒たちは長年にわたって落胆し、意気消沈して、何もすることができませんでした。これらのメッセージは彼らの霊を解放し、彼らの心を照らしました。……主に感謝します。命の木についてのメッセージを通して、上海に在る召会はいやされました。……命の木についてのメッセージは、上海に在る召会の復興のために基礎を据えました」――ウイットネス・リー全集、1981年、第2巻（上）、「主の回復の歴史と啓示」、第8編。

使徒 5:5 アナニヤはこの言を聞くと、倒れて息絶えた。そして、それを聞いたすべての人に、大いなる恐れが臨んだ。

使徒 5:2 妻もそれを承知の上で、その代金のいくらかを自分のために取っておいた。彼はその一部分を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。

使徒 5:8 ペテロは彼女に應對して言った、「わたしに言いなさい。あなたがたはあの土地を、これだけで売ったのか?」。彼女は「はい、それだけです」と言った。

「もしわたしたちが神を享受する道を取りたいなら、観念を変えなければなりません。……もしわたしたちが神を享受する実際の中へと入りたいなら、支配するビジョンを見なければなりません。……わたしが四十歳になってはじめて、主はわたしに彼を享受する道を啓示してくださいました。わたしは自分の二十年間の時間と労力の大部分が無駄であったことに失望しました。わたしの祈りの大部分は価値がなく、聖書や他の霊的書物を読むのに費やした時間も価値がありませんでした。この時わたしは、わたしたちの働きの道が間違っており、またわたしたちの霊的な追求の道も間違っていたことに気づきました」。

「間違った道を取ることから大きな損害を被ったので、わたしは他の人たちに同じ間違いを繰り返してもらいたくありません。わたしが望むのは、他の人たちが神を享受する道を取ることができることです。わたしは聖徒たちにもはやこれ以上、間違った道を取らないように懇願します。わたしたちは以前のわたしたちの追求の道を考慮すべきです。わたしたちは観念において徹底的な転換を持たなければなりません。わたしたちは支配するビジョンを持つ必要があります」――「命の木と善悪知識の木」のビジョン」、第5章。

2025 Living Stream Ministry

わたしたちの義認の結果——

わたしたちの命としてのキリストにある神に対する満ち満ちた享受

聖書：ローマ 5:1-11

- ローマ 5:1 こういふわけで、わたしたちは信仰によって義とされているので、わたしたちの主イエス・キリストを通し、神に対して平和を持っています。
- ローマ 5:2 またその方を通して、わたしたちも、いま立っているこの恵みの中へ信仰によって入ることができ、そして神の栄光の望みのゆえに勝ち誇っています。
- ローマ 5:3 それだけではなく、わたしたちは患難の中でも勝ち誇るのです。それは、患難は忍耐を、
- ローマ 5:4 忍耐は練達を、練達は望みを生み出すことを知っているからです。
- ローマ 5:5 そして望みは、わたしたちに恥をかかせることはありません。なぜなら、わたしたちに与えられている聖霊を通して、神の愛がわたしたちの心の中に注がれているからです。
- ローマ 5:6 わたしたちがまだ弱かったころ、キリストは定められた時に、不敬虔な者のために死んでくださいました。
- ローマ 5:7 義人のために死ぬ人は、ほとんどいません。あるいは善人のためには、死のうとする人もいるでしょう。
- ローマ 5:8 ところが神は、わたしたちがまだ罪人であった時に、キリストがわたしたちのために死んでくださったことによって、ご自身の愛を、わたしたちに明らかにしておられます。
- ローマ 5:9 まして、今は彼の血の中で義とされているのですから、わたしたちが彼を通して激怒から救われるのは、なおさらのことです。
- ローマ 5:10 というのは、わたしたちが敵であった時に、神の御子の死を通して神に和解させられたからには、和解させられている今、さらにいっそう彼の命の中で救われるからです。
- ローマ 5:11 それだけではなく、今やわたしたちの主イエス・キリストを通して神との和解を受け、さらに彼を通して神の中で勝ち誇りながら、彼の命の中で救われるのです。

I. 義認は、神の義の標準にしたがってわたしたちを良しと認める、神の行動です。信者たちの義は、彼ら自身において彼らが所有する状態ではなく、彼らが結合されたパーソン、すなわち生けるキリストご自身です：

A. わたしたちはキリストの中へと信じるとき、神の赦しを受け（使徒 10:43）、そして神は、キリストをわたしたちの義とすることによって、またわたしたちの義の衣であるキリストをわたしたちに着せることによって（イザヤ 61:10、ルカ 15:22、エレミヤ 23:6、ゼカリヤ 3:4）、わたしたちを義とすることができます（ローマ 3:24、26）。

使徒 10:43 「すべての預言者は、この方について、彼の中へと信じる者はすべて、彼の御名を通して罪の赦しを受けると証ししています」。

イザヤ 61:10 わたしはエホバにあって喜びに喜び、わたしの魂はわたしの神にあって喜び躍る。彼がわたしに救いの衣を着せ、義の上着をまとうせられたからだ。わたしは祭司の頭飾りを着けた花婿のようであり、宝石で飾った花嫁のようである。

ルカ 15:22 しかし、父は奴隷たちに言った、『急いで、あの最上の衣を持って来て彼に着せ、手に指輪をはめ、足にサンダルをはかせなさい。』

エレ 23:6 彼の日々にユダは救われ、イスラエルは安全に住む。『エホバわたしたちの義』、これが、彼が呼ばれる彼の名である。

ゼカ 3:4 すると、彼は答え、ご自分の前に立っている者たちに語って言われた、「その汚れた衣服を彼から脱がせなさい」。そして彼はヨシュアに言われた、「見よ、わたしは、あなたの罪科をあなたから除いて、あなたに礼服を着せる」。

ローマ 3:24 無代価で、彼の恵みにより、キリスト・イエスにある贖いを通して、義とされるからです。

ローマ 3:26 それは現在の時に彼の義を明らかに示すためです。それは神が義となり、またイエスの信仰の者を義とする方となるためでした。

B. 命は神の救いの目標です。こういうわけで、義認は「命のもの」です。義認を通して、わたしたちは神の義の標準に達し、それと一致します。それによって、彼は今、ご自身の命をわたしたちの中へと分け与えることができます——ローマ 5:18。

ローマ 5:18 こういうわけで、一度の違犯を通してすべての人に罪定めが及んだように、一度の義なる行為を通して、すべての人に命の義認がもたらされたのです。

II. わたしたちの義認の結果は、わたしたちの命としてのキリストにある神の満ち満ちた享受です——ローマ 5:1-11 :

ローマ 5:1 こういうわけで、わたしたちは信仰によって義とされているので、わたしたちの主イエス・キリストを通し、神に対して平和を持っています。

ローマ 5:2 またその方を通して、わたしたちも、いま立っているこの恵みの中へ信仰によって入ることができ、そして神の栄光の望みのゆえに勝ち誇っています。

ローマ 5:3 それだけではなく、わたしたちは患難の中でも勝ち誇るのです。それは、患難は忍耐を、

ローマ 5:4 忍耐は練達を、練達は望みを生み出すことを知っているからです。

ローマ 5:5 そして望みは、わたしたちに恥をかかせることはありません。なぜなら、わたしたちに与えられている聖霊を通して、神の愛がわたしたちの心の中に注がれているからです。

ローマ 5:6 わたしたちがまだ弱かったころ、キリストは定められた時に、不敬虔な者のために死んでくださいました。

ローマ 5:7 義人のために死ぬ人は、ほとんどいません。あるいは善人のためには、死のうとする人もいるでしょう。

ローマ 5:8 ところが神は、わたしたちがまだ罪人であった時に、キリストがわたしたちのために死んでくださったことによって、ご自身の愛を、わたしたちに明らかにしておられます。

ローマ 5:9 まして、今は彼の血の中で義とされているのですから、わたしたちが彼を通して激怒から救われるのは、なおさらのことです。

ローマ 5:10 というのは、わたしたちが敵であった時に、神の御子の死を通して神に和解させられたからには、和解させられている今、さらにいっそう彼の命の中で救われるからです。

ローマ 5:11 それだけではなく、今やわたしたちの主イエス・キリストを通して神との和解を受け、さらに彼を通して神の中で勝ち誇りながら、彼の命の中で救われるのです。

A. わたしたちの義認の結果は、以下の六つのすばらしいものに具体化されています。すなわち、愛 (5 節)、恵み (2 節)、平和 (1 節)、望み (2 節)、命 (10 節)、栄光 (2 節) であって、これらはわたしたちの享受のためです。これらの節はまた三一の神を、すなわち、聖霊 (5 節)、キリスト (6 節)、神 (11 節) を啓示しており、それはわたしたちの享受のためです。

ローマ 5:5 そして望みは、わたしたちに恥をかかせることはありません。なぜなら、わたしたちに与えられている聖霊を通して、神の愛がわたしたちの心の中に注がれているからです。

ローマ 5:2 またその方を通して、わたしたちも、いま立っているこの恵みの中へ信仰によって入ることができ、そして神の栄光の望みのゆえに勝ち誇っています。

ローマ 5:1 こういうわけで、わたしたちは信仰によって義とされているので、わたしたちの主イエス・キリストを通し、神に対して平和を持っています。

ローマ 5:2 またその方を通して、わたしたちも、いま立っているこの恵みの中へ信仰によって入ることができ、そして神の栄光の望みのゆえに勝ち誇っています。

ローマ 5:10 というのは、わたしたちが敵であった時に、神の御子の死を通して神に和解させられたからには、和解させられている今、さらにいっそう彼の命の中で救われるからです。

ローマ 5:2 またその方を通して、わたしたちも、いま立っているこの恵みの中へ信仰によって入ることができ、そして神の栄光の望みのゆえに勝ち誇っています。

ローマ 5:5 そして望みは、わたしたちに恥をかかせることはありません。なぜなら、わたしたちに与えられている聖霊を通して、神の愛がわたしたちの心の中に注がれているからです。

ローマ 5:6 わたしたちがまだ弱かったころ、キリストは定められた時に、不敬虔な者のために死んでくださいました。

ローマ 5:11 それだけではなく、今やわたしたちの主イエス・キリストを通して神との和解を受け、さらに彼を通して神の中で勝ち誇りながら、彼の命の中で救われるのです。

B. キリストの贖う死を通して、神は罪人であるわたしたちを義とし、また彼の敵であるわたしたちをご自身に和解させられました (1, 10-11 節)。さらに、「わたしたちに与えられている聖霊を通して、神の愛がわたしたちの心の中に注がれて」います (5 節) :

ローマ 5:1 こういうわけで、わたしたちは信仰によって義とされているので、わたしたちの主イエス・キリストを通し、神に対して平和を持っています。

ローマ 5:10 というのは、わたしたちが敵であった時に、神の御子の死を通して神に和解させられたからには、和解させられている今、さらにいっそう彼の命の中で救われるからです。

ローマ 5:11 それだけではなく、今やわたしたちの主イエス・キリストを通して神との和解を受け、さらに彼を通して神の中で勝ち誇りながら、彼の命の中で救われるのです。

ローマ 5:5 そして望みは、わたしたちに恥をかかせることはありません。なぜなら、わたしたちに与えられている聖霊を通して、神の愛がわたしたちの心の中に注がれているからです。

1. わたしたちは患難を受け、貧しくあって、圧迫されるかもしれませんが、わたしたちの内側にある神の愛の存在を否定することはできません。キリストご自身である命の路線にとどまるために (ヨハネ 14:6 前半)、わたしたちは自分自身を神の愛、すなわち神ご自身 (I ヨハネ 4:8, 16) の中に保つ (ユダ 20-21 節) 必要があります。

ヨハネ 14:6 イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、実際であり、命である。わたしを通してでなければ、だれも父に来ることはない。

ヨハネ 4:8 弟子たちは、食物を買いに町へ行っていた。

ヨハネ 4:16 イエスは彼女に言われた、「行って、あなたの夫を呼んで、ここに連れて来なさい」。

ユダ 20 しかし、愛する者たちよ、あなたがたは最も聖い信仰の上に自らを建て上げ、聖霊の中で祈りなさい。

ユダ 21 自分自身を神の愛の中に保ち、わたしたちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望んで、永遠の命へと至りなさい。

2. わたしたちは、神が与えてくださった愛の霊を再び燃え立たせる必要があります。それによって、わたしたちは燃える愛の霊を持って、今日の召会の墮落に打ち勝つことができます。

わたしたちの霊を再び燃え立たせるとは、絶えずわたしたちの霊を活用する習慣を建て上げて、わたしたちの霊の中のその霊である主との接触の中にとどまることです——Ⅱテモテ 1:6-7, 4:22。

Ⅱテモ 1:6　　こういうわけで、わたしがあなたに思い起こさせたいのは、わたしの按手を通して与えられているあなたの内にある神の賜物を、再び燃え立たせることです。

Ⅱテモ 1:7　　というのは、神がわたしたちに賜わったのは、臆する霊ではなく、力と、愛と、冷静な思いとの霊であるからです。

Ⅱテモ 4:22　　主があなたの霊と共におられますように。恵みがあなたと共にありますように。

C. 「わたしたちも、いま立っているこの恵みの中へ信仰によって入ることができ……ます」（ローマ 5:2）。わたしたちは信仰によって義とされ、恵みの領域の中に立っているのので、「わたしたちの主イエス・キリストを通し、神に対して平和を持っています」（1 節）：

ローマ 5:2　　またその方を通して、わたしたちも、いま立っているこの恵みの中へ信仰によって入ることができ、そして神の栄光の望みのゆえに勝ち誇っています。

ローマ 5:1　　こういうわけで、わたしたちは信仰によって義とされているので、わたしたちの主イエス・キリストを通し、神に対して平和を持っています。

1. 神「に対して」平和を持っているとは、わたしたちが信仰によって義とされることを通して神の中へと入る行程がまだ完了しておらず、今もなお神の中へと入る途上にあることを意味します。ルカ第 7 章によれば、多く赦されたので「多く愛した」罪深い女（47-48 節）に、救われるために「平和の中へと行きなさい」（50 節、文字どおり）と、主イエスは告げました。

ルカ 7:47　　こういうわけで、わたしはあなたに言う、彼女の罪は多いが、赦されている。だから彼女は多く愛した。しかし、少ししか赦されていない者は、少ししか愛さない」。

ルカ 7:48　　そしてイエスは女に言われた、「あなたの罪は赦されている」。

ルカ 7:50　　しかし、イエスはその女に言われた、「あなたの信仰があなたを救ったのです。平安の中に行きなさい」。

2. わたしたちは、いったん義認の門を通ったなら、平安の道を歩く必要があります（ローマ 3:17）。わたしたちが思いを霊に付けるとき（わたしたちの霊を顧慮し、わたしたちの霊を用い、わたしたちの霊に注意を払い、神の霊との交流の中でわたしたちの霊によって神と接触し、わたしたちの霊の中で歩き、生きることによって）、わたしたちの思いは平安となり、安息と解放と明るさと心地よさという内なる感覚をわたしたちに与えます（8:6）。

ローマ 3:17　　彼らは平安の道を知らない。

ローマ 8:6　　肉に付けた思いは死ですが、霊に付けた思いは命と平安です。

Ⅲ. わたしたちは恵みの領域の中で、神をわたしたちの勝ち誇ること、また歓喜として持って、享受し喜びます。神の中で勝ち誇るとは、「患難の中でも勝ち誇る」ことです。「それは、患難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は望みを生み出すことを知っているからです」——ローマ 5:3-4, 11:

ローマ 5:3　　それだけではなく、わたしたちは患難の中でも勝ち誇るのです。それは、患難は忍耐を、

ローマ 5:4　　忍耐は練達を、練達は望みを生み出すことを知っているからです。

ローマ 5:11　　それだけではなく、今やわたしたちの主イエス・キリストを通して神との和解を受け、さらに彼を通して神の中で勝ち誇りながら、彼の命の中で救われるのです。

A. 患難は、実は恵みの具体化であり、恵みの甘い訪れです。患難を拒絶することは、恵みを拒絶することです。恵みはわたしたちの分け前としての神であり、わたしたちの享受のためです。

恵みはおもに患難という形でわたしたちを訪れ、それによって神はすべて（すべての人、すべての事柄、すべての状況、すべての境遇、すべての環境）を共に働かせて益とならせます。すなわち、わたしたちがさらにキリストを獲得して、彼をわたしたちの存在の中へと造り込んでいただき、それによってわたしたちが新陳代謝的に造り変えられ、キリストのかたちに同形化されるようにし、また完全な子たる身分へともたらされるようにします——Ⅱコリント 12:7-9、ローマ 8:28-29。

Ⅱコリ 12:7　そして、その啓示があまりにもすばらしいために、わたしが高ぶり過ぎないようにと、肉体に一つのとげが与えられました。それは、わたしが高ぶり過ぎないように、わたしを打つためのサタンの使いなのです。

Ⅱコリ 12:8　これについてわたしは、それが取り去られるようにと、三度も主に懇願しました。

Ⅱコリ 12:9　すると彼はわたしに言われました、「わたしの恵みは、あなたに対して十分である。わたしの力は、弱さにおいて完全に現れる」。ですから、わたしはむしろ自分の弱さを、大いに喜んで誇りましょう。それはキリストの力が、わたしの上に幕屋を張るためです。

ローマ 8:28　また神を愛する者、すなわち、彼の目的にしたがって召されている者たちには、すべてが共に働いて益となることを、わたしたちは知っています。

ローマ 8:29　なぜなら、神はあらかじめ知っておられた者たちを、御子のかたちに同形化しようと、あらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの間で長子となるためです。

B. 患難は忍耐という結果になり、忍耐は練達、すなわち試みられた性格と良しと認められた価値を生み出します（ピリピ 2:19-22）。パウロは、彼と彼の同労者たちが「神によって良しと認められ、福音を託された」と言っています（Ⅰテサロニケ 2:4）。神は絶えず彼らの心を吟味し、調べ、試みたので、彼らの福音の語りかけは、彼ら自身から出て人を喜ばせようとしたのではなく、神から出て神を喜ばせようとしてしました：

ピリピ 2:19　しかしわたしは、間もなくテモテをあなたがたの所に遣わしたいと、主イエスにあって望んでいます。それは、あなたがたの様子を知って、わたしも励ましを受けるためです。

ピリピ 2:20　それは、あなたがたのことを本気で心配しているわたしと同じ魂の人を、わたしは一人も持たないからです。

ピリピ 2:21　人はみな自分自身のことを求めて、キリスト・イエスのことを求めないのです。

ピリピ 2:22　しかしあなたがたは、テモテの良しと認められている様子を知っています。彼は、子が父にするように、わたしと共に福音のために奉仕してきたのです。

Ⅰテサ 2:4　むしろ、わたしたちは神によって良しと認められ、福音を託された者なので、人を喜ばせようとしてではなく、わたしたちの心を吟味される神を喜ばせようとして語るのです。

1. Ⅰペテロ第1章7節が言っているのは、わたしたちの信仰が試されることは、「朽ちる金が火（試練と苦難による火）によって試されることよりもはるかに尊 [い] 」ということです。原料のままの金が純化する火の燃焼を受けるとき、だれからも容易に良しと認められる質を得ます——マラキ 3:3。

Ⅰテサ 1:7　マケドニアとアカヤにおいて、信じる者すべての模範となりました。

マラキ 3:3　彼は銀を精練する者またきよめる者として座し、レビの子たちをきよめ、彼らを金のように、また銀のように純粹にされる。彼らはエホバに、義にあって犠牲をささげる。

2. 主はわたしたちに、代価を払って火のような試練を通して金の信仰としてのご自身を得てほしいのです。それは、わたしたちが真の金、すなわち、神聖な性質を伴う神聖な命としてのキリストご自身にあずかって、彼のからだを建造するためです。こうして、わたしたちは純

金の燭台となって、金の新エルサレムを建造することができます——啓 3:18. 1:20. 21:18, 23. II ペテロ 1:4。

啓 3:18 わたしはあなたに勧め、あなたが富むために、火で精錬された金をわたしから買いなさい。またあなたがまとして裸の恥を現さないために、白い衣を買いなさい。また見えるようになるために、目に塗る目薬を買いなさい。

啓 1:20 あなたがわたしの右の手に見た七つの星と、七つの金の燭台の奥義はこうである。七つの星は七つの召会の使者たちであり、七つの燭台は七つの召会である。

啓 21:18 城壁は碧玉で築かれ、都は純金であって、透き通ったガラスのようであった。

啓 21:23 都の中では、太陽も月も輝く必要がない。神の栄光がそれを照らし、小羊がそのともし火だからである。

II ペテ 1:4 彼はその栄光と美德を通して、尊く、際立って偉大な約束を、わたしたちにすでに与えてくださっています。それは、これらの約束を通して、あなたがたが情欲によるこの世の腐敗から逃れて、神聖な性質にあずかる者となるためです。

3. 主を愛するある聖徒たちは、自分たちがある程度の命と光を持っているので、主のために働くのにふさわしい者であると考えていますが、彼らは生のままであり、良しと認められた質、すなわち、患難と試みを耐え忍ぶことから生じる、良しと認められた質に欠けています。この質は彼らの供給にあずかる人たちに、幸い、甘さ、心地よさを感じさせます。

4. わたしたちはみな次のように祈らなければなりません、「主よ、わたしを良しと認められた者にしてください」。そのとき、主はわたしたちを良しと認められる者にする環境を起こされるでしょう。わたしたちはキリストの奴隷ですが、良しと認められることに欠けています。この事は神を悩ませ、わたしたちに損害を与え、聖徒たちと神の家族を煩わせます。わたしたちは、わたしたちの光とわたしたちの賜物によって聖徒たちを助けますが、良しと認められることに欠けていることによって、彼らを傷つけます——マタイ 24:45-51。

マタイ 24:45 そこで、主人が家族の上に任命して、時に応じて彼らに食物を与える忠信で思慮深い奴隷は、だれであろうか？

マタイ 24:46 主人が来た時、そのように行なっているのを見られる奴隷は幸いである。

マタイ 24:47 まことに、わたしはあなたがたに言う。主人は彼に自分の全財産を管理させるようになる。

マタイ 24:48 しかし、その邪悪な奴隷が心の中で、『わたしの主人は来るのが遅れる』と言い、

マタイ 24:49 奴隷仲間を打ちたたき始め、酔っ払いどもと食べたり飲んだりするなら、

マタイ 24:50 その奴隷の主人は、思いがけない日、知らない時に来て、

マタイ 24:51 彼を断ち切り、偽善者たちと同じ目に遭わせる。そこでは、泣き叫んだり歯がみしたりする。

C. 良しと認められることに加えて、わたしたちは望みを持ち（ローマ 5:4）、神の栄光の望みのゆえに勝ち誇っています（2節）：

ローマ 5:4 忍耐は練達を、練達は望みを生み出すことを知っているからです。

ローマ 5:2 またその方を通して、わたしたちも、いま立っているこの恵みの中へ信仰によって入ることができ、そして神の栄光の望みのゆえに勝ち誇っています。

1. わたしたちは恵みの中に立っており、平和の中を歩いていますが、まだ十分に栄光の中に、すなわち、表現された神ご自身の中にいません。「わたしたちの受けるつかの間の軽い患難は、ますます卓越した永遠の重い栄光を、わたしたちにもたらす」のです——II コリント 4:17。

- Ⅱコリ 4:17 なぜなら、わたしたちの受けるつかの間の軽い患難は、ますます卓越した永遠の重い栄光を、わたしたちにもたらすからです。
2. あらゆる恵みの神は、キリスト・イエスにあってわたしたちをご自身の永遠の栄光の中へ召してくださいました。わたしたちは今ここで、わたしたちの栄光の望みとしての、わたしたちの霊の中に住んでいるキリストを享受しています——Ⅰペテロ 5:10. Ⅰテサロニケ 2:12. コロサイ 1:27. ピリピ 3:21。
- Ⅰペテ 5:10 しかし、あらゆる恵みの神、キリスト・イエスにあってあなたがたをご自身の永遠の栄光の中へ召して下さった方は、あなたがたがしばらく苦しみを受けた後、彼自らあなたがたを成就し、堅固にし、力づけ、土台づけてくださいます。
- Ⅰテサ 2:12 それはあなたがたが、ご自身の王国と栄光の中へと、あなたがたを召しておられる神にふさわしく歩くためです。
- コロ 1:27 神は彼らに、異邦人の間にあるこの奥義の栄光の豊富がどんなものであるかを、知らせたいと願われました。それはあなたがたの内にいますキリストであり、栄光の望みです。
- ピリピ 3:21 キリストは、万物を彼ご自身に服従させることができる彼の活動によって、わたしたちの卑しい体をも変貌させ、それを彼の栄光の体に同形化してくださいます。
3. 主は日ごとにわたしたちを聖別することによって、わたしたち、彼の多くの子たちを栄光へ導き入れつつあります（ヘブル 2:10-11）。そして、わたしたちは日ごとに、ある段階の栄光から別の段階の栄光へと、徐々に造り変えられつつありますが、それは、わたしたちの心を主に向け続けて、イエス・キリストの御顔にある神の栄光を見つめることによります（Ⅱコリント 3:16-18. 4:6 後半）。
- ヘブル 2:10 万物がその方のために存在し、万物がその方を通して存在する方が、多くの子たちを栄光へ導き入れるのに、彼らの救いの創始者を、苦難を通して成就されるのは、彼にふさわしいことでした。
- ヘブル 2:11 聖別する方と、聖別されつつある者たちは、すべてひとりの方から出ているのであり、それゆえに主は、彼らを兄弟と呼ぶことを恥とされないで、
- Ⅱコリ 3:16 しかし、彼らの心が主に向く時はいつも、そのおおいを取り除かれます。
- Ⅱコリ 3:17 そして主はその霊です。そして主の霊のあるところには、自由があります。
- Ⅱコリ 3:18 しかし、わたしたちはみな、主の栄光をおおいのない顔をもって、鏡のように見つめ、そして反映して、栄光から栄光へ、主と同じかたちへと徐々に造り変えられていきますが、それはまさに主なる霊からです。
- Ⅱコリ 4:6 なぜなら、「暗やみから光が照りいでよ」と言われた神は、わたしたちの心の中を照らして、イエス・キリストの御顔にある神の栄光の知識を、輝かせて下さったからです。
- D. わたしたちは苦難の中でキリストを享受するとき、彼の命の中で救われつつあり、神のダイナミックな救いの有機的な目標を完成します。この目標とは、キリストの有機的なからだを生み出し、建造し、諸地方召会において表現することです。そこにおいてわたしたちは主の豊富な恵みを享受し、またそこにおいて平和の神はサタンをわたしたちの足の下に踏み砕き、彼の栄光の表現を得て、彼の勝利を展覽します——ローマ 5:10. 12:5. 16:1, 4-5, 16, 20。
- ローマ 5:10 というのは、わたしたちが敵であった時に、神の御子の死を通して神に和解させられたからには、和解させられている今、さらにいっそう彼の命の中で救われるからです。
- ローマ 12:5 わたしたちも数は多いのですが、キリストの中で一つからだであり、そして各自は

互いに肢体なのです。

ローマ 16:1 わたしはあなたがたに、わたしたちの姉妹フィベを推薦します。彼女はケンクレヤに在る召会の女執事です。

ローマ 16:4 彼らはわたしの命のために、自らの首を差し出しました。彼らにはわたしだけでなく、異邦人のすべての召会も感謝しています。

ローマ 16:5 また、彼らの家にある召会によろしく。わたしの愛するエパネトによろしく。彼はキリストへのアジアの初穂です。

ローマ 16:16 聖い口づけをもって、互いにあいさつし合いなさい。キリストのすべての召会が、あなたがたによろしく。

ローマ 16:20 今や平安の神が速やかに、サタンをあなたがたの足の下に踏み砕かれます。わたしたちの主イエスの恵みが、あなたがたと共にありますように。

キリストの死の様と復活の様

聖書：ローマ 6:3-5, 5:17, ガラテヤ 3:27

- ローマ 6:3 それとも、キリスト・イエスの中へとバプテスマされたわたしたちはみな、彼の死の中へとバプテスマされたことを、あなたがたは知らないのですか？
- ローマ 6:4 こういうわけで、わたしたちは彼の死の中へとバプテスマされることを通して、彼と共に葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光を通して死人の中から復活させられたように、わたしたちも命の新しいさの中を歩くためです。
- ローマ 6:5 もしわたしたちが、彼の死の様の中で彼と結合して生長したなら、彼の復活の様の中でも彼と結合して生長するのです。
- ローマ 5:17 もし一人の違犯によって、死が一人を通して王として支配したなら、あふれるばかりの恵みとあふれるばかりの義の賜物を受ける者たちは、さらにいっそう一人の方、イエス・キリストを通して、命の中で王として支配します。
- ガラ 3:27 なぜなら、キリストの中へとバプテスマされた者はみな、キリストを着たからです。

I. 「キリスト・イエスの中へとバプテスマされたわたしたちはみな、彼の死の中へとバプテスマされた」——ローマ 6:3 :

ローマ 6:3 それとも、キリスト・イエスの中へとバプテスマされたわたしたちはみな、彼の死の中へとバプテスマされたことを、あなたがたは知らないのですか？

A. バプテスマは形式や儀式ではありません。それはわたしたちとキリストとの一体化を表徴します——3節。

ローマ 6:3 それとも、キリスト・イエスの中へとバプテスマされたわたしたちはみな、彼の死の中へとバプテスマされたことを、あなたがたは知らないのですか？

B. バプテスマを通して、わたしたちはキリストの中へと浸され、キリストをわたしたちの領域とします。それによってわたしたちはキリストの死と復活の中で彼と結合されて一となります。

C. わたしたちは最初の人（I コリント 15:45, 47）であるアダムの領域の中で生まれましたが、バプテスマを通して、第二の人（I コリント 15:47）であるキリストの領域の中へと移されました（1:30, ガラテヤ 3:27）。

I コリ 15:45 そこで、「最初の人、アダムは、生きた魂と成った」と書かれていますが、最後のアダムは、命を与える霊と成ったのです。

I コリ 15:47 最初の方は地から出て、土に属し、第二の方は、天から出ています。

I コリ 15:47 最初の方は地から出て、土に属し、第二の方は、天から出ています。

I コリ 1:30 しかし、あなたがたがキリスト・イエスの中にあるのは、神によるのです。このキリスト・イエスは、神からわたしたちに与えられた知恵、すなわち、義と聖別と贖いとなりました。

ガラ 3:27 なぜなら、キリストの中へとバプテスマされた者はみな、キリストを着たからです。

D. わたしたちはキリストの中へとバプテスマされるとき、彼の死の中へとバプテスマされます——ローマ 6:3。

ローマ 6:3 それとも、キリスト・イエスの中へとバプテスマされたわたしたちはみな、彼の死の中へとバプテスマされたことを、あなたがたは知らないのですか？

E. 彼の死はわたしたちをこの世から、また暗やみのサタン的な力から分離し、わたしたちの天然の命、わたしたちの古い性質、わたしたちの自己、わたしたちの肉、さらにはわたしたちの歴

史全体を終結させました。

II. 「こういうわけで、わたしたちは彼の死の中へとバプテスマされることを通して、彼と共に葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光を通して死人の中から復活させられたように、わたしたちも命の新しさの中を歩くためです」——ローマ 6:4 :

ローマ 6:4　　こういうわけで、わたしたちは彼の死の中へとバプテスマされることを通して、彼と共に葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光を通して死人の中から復活させられたように、わたしたちも命の新しさの中を歩くためです。

A. わたしたちの古い人はキリストと共に十字架につけられ (6 節)、そしてバプテスマされることを通して、わたしたちの古い人は彼と共に葬られて、死に渡されました。

ローマ 6:6　　わたしたちは次のことを知っています。わたしたちの古い人が彼と共に十字架につけられたのは、罪の体が無効にされて、わたしたちがもはや、罪に奴隷として仕えることがないためです。

B. 天然の領域において人はまず死んで、次に葬られます。しかしパウロの言葉は、霊の領域においてわたしたちはまず葬られ、次に死ぬことを示しています。

C. わたしたちは直接死ぬのではなく、バプテスマを通してキリストの死の中へと入ります。

D. キリストと彼の死は一です。

E. キリストから離れて、わたしたちは彼の死の中へとバプテスマされることは決してできませんでした。なぜなら、彼の効力ある死の要素は、彼の中に、すなわち、復活した、すべてを含む方の中にだけ見いだされるからです——参照、ヨハネ 5:29. 11:24-25. 使徒 1:22. 2:31。

ヨハネ 5:29　　出て来る。善を行なった者は命の復活に入り、悪を実行した者は裁きの復活に入る。

ヨハネ 11:24　　マルタは彼に言った、「終わりの日の復活の時に、彼が復活することは知っております」。

ヨハネ 11:25　　イエスは彼女に言われた、「わたしは復活であり、命である。わたしの中へと信じる者は、たとえ死んでも生きる。

使徒 1:22　　すなわちヨハネのバプテスマに始まり、主がわたしたちを離れて上げられた日まで、常に共にいた人たちの一人が、わたしたちと共にイエスの復活の証し人となるべきです」。

使徒 2:31　　このことを前もって見て、キリストの復活について、『彼はハデス [陰府] に捨てておかれることはなく、彼の肉体は、朽ち果てるのを見ることもない』と語ったのです。

F. ローマ第 6 章 4 節の「御父の栄光」は、神性の現れを指しています。

ローマ 6:4　　こういうわけで、わたしたちは彼の死の中へとバプテスマされることを通して、彼と共に葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光を通して死人の中から復活させられたように、わたしたちも命の新しさの中を歩くためです。

G. バプテスマの後、わたしたちは復活の中で新しい人になっています——ペリピ 3:10。

ペリピ 3:10　　キリストと彼の復活の力と彼の苦難の交わりとを知り、彼の死に同形化されて、

H. 復活は将来の状態だけではなく、現在の過程でもあります。

I. 命の新しさの中を歩くことは、今日、復活の領域の中で生活し、命の中で王として支配することを意味します——ローマ 6:4. 5:17。

ローマ 6:4　　こういうわけで、わたしたちは彼の死の中へとバプテスマされることを通して、彼と共に葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光を通して死人の中から復活させられたように、わたしたちも命の新しさの中を歩くためです。

ローマ 5:17　　もし一人の違犯によって、死が一人を通して王として支配したなら、あふれるばかりの

恵みとあふれるばかりの義の賜物を受ける者たちは、さらにいっそう一人の方、イエス・キリストを通して、命の中で王として支配します。

J. このような生活は、わたしたちの中のアダムに属するものをすべて対処し、ついにはわたしたちが完全に造り変えられ、キリストのかたちに同形化されるに至ります——12:2, 8:29。

ローマ 12:2 またこの時代にかたどられてはいけません。むしろ、思いが新しくされることによって造り変えられなさい。それは、何が神のみこころであるか、すなわち何が善であって、喜ばれ、完全なものであるかを、あなたがたがわきまえるようになるためです。

ローマ 8:29 なぜなら、神はあらかじめ知っておられた者たちを、御子のかたちに同形化しようと、あらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの間で長子となるためです。

Ⅲ. 「もしわたしたちが、彼の死の様の中で彼と結合して生長したなら、彼の復活の様の中でも彼と結合して生長するのです」——ローマ 6:5 :

ローマ 6:5 もしわたしたちが、彼の死の様の中で彼と結合して生長したなら、彼の復活の様の中でも彼と結合して生長するのです。

A. 「彼と結合して生長した」は、有機的な結合を示しており、この結合の中で生長が起こります。それによって一方は、もう一方の命と特徴にあずかります——5 節前半。

ローマ 6:5 もしわたしたちが、彼の死の様の中で彼と結合して生長したなら、彼の復活の様の中でも彼と結合して生長するのです。

B. キリストとの有機的な結合の中で、キリストが経過したものはすべて、わたしたちの歴史となっています。

C. 彼の死と復活は、今やわたしたちのものであります。なぜなら、わたしたちは彼の中におり、彼と有機的に結合されているからです。これが接ぎ木です——11:24。

ローマ 11:24 もしあなたが、本来は野生のオリブの木であるものから切り離されて、栽培されたオリブの木へと、自然の性質に反して接がれたとしたら、まして本来の枝である者たちは、彼ら自身のオリブの木へとどれほどよく接がれることでしょうか！

D. そのような接ぎ木は、わたしたちのすべての消極的な要素を排出し、神が創造されたわたしたちの機能を復活させ、わたしたちの機能を引き上げ、わたしたちの機能を豊かにし、わたしたちの全存在に浸透して、わたしたちを造り変えます。

E. キリストの死の様は、ローマ第 6 章 4 節で述べられているバプテスマです。キリストの復活の様は、4 節で述べられている命の新しさです。

ローマ 6:4 こういうわけで、わたしたちは彼の死の中へとバプテスマされることを通して、彼と共に葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光を通して死人の中から復活させられたように、わたしたちも命の新しさの中を歩くためです。

ローマ 6:4 こういうわけで、わたしたちは彼の死の中へとバプテスマされることを通して、彼と共に葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光を通して死人の中から復活させられたように、わたしたちも命の新しさの中を歩くためです。

F. 「彼の復活の様の中で」(5 節)は、将来の、客観的な復活を指しているのではなく、現在の生長の過程を指しています。

ローマ 6:5 もしわたしたちが、彼の死の様の中で彼と結合して生長したなら、彼の復活の様の中でも彼と結合して生長するのです。

G. わたしたちはバプテスマされた時、キリストの死の様の中で彼と結合して生長しました。今や彼の死を通して、わたしたちは彼の復活の中へと生長しつつあります。

H. キリストの死の要素が、彼の中でだけ見いだされるように、キリストの復活の要素も、キリストご自身の中でだけ見いだされます。彼ご自身が復活です——ヨハネ 11:25。

ヨハネ 11:25 イエスは彼女に言われた、「わたしは復活であり、命である。わたしの中へと信じる者は、たとえ死んでも生きる。

I. 正しいバプテスマを経験した後、キリストの復活の様の中で、わたしたちは続けて彼の中で、また彼と結合して生長します。これが命の新しい中を歩くことです——ローマ 6:4。

ローマ 6:4 こういうわけで、わたしたちは彼の死の中へとバプテスマされることを通して、彼と共に葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光を通して死人の中から復活させられたように、わたしたちも命の新しい中を歩くためです。

IV. 「キリストの中へとバプテスマされた者はみな」——ガラテヤ 3:27 :

ガラ 3:27 なぜなら、キリストの中へとバプテスマされた者はみな、キリストを着たからです。

A. バプテスマには四つの面があります。それは父、子、霊の御名の中へとバプテスマされること（マタイ 28:19）、キリストの中へとバプテスマされること（ガラテヤ 3:27）、キリストの死の中へとバプテスマされること（ローマ 6:3）、キリストのからだの中へとバプテスマされることです（I コリント 12:13）。

マタイ 28:19 だから、行って、すべての諸国民を弟子とし、父と子と聖霊の名の中へと彼らをバプテスマして、

ガラ 3:27 なぜなら、キリストの中へとバプテスマされた者はみな、キリストを着たからです。

ローマ 6:3 それとも、キリスト・イエスの中へとバプテスマされたわたしたちはみな、彼の死の中へとバプテスマされたことを、あなたがたは知らないのですか？

I コリ 12:13 なぜなら、わたしたちはユダヤ人もギリシャ人も、奴隷も自由人も、みな一つ霊の中で、一つからだの中へとバプテスマされ、みな一つ霊を飲むようにされたからです。

B. バプテスマは、悔い改めた人々を彼らの古い状態から新しい状態へもたらし、彼らの古い命を終結させ、キリストの新しい命、またキリストの中にある新しい命をもって、彼らに新しい開始を持たせます——ローマ 8:2, 10。

ローマ 8:2 なぜなら、命の霊の法則が、キリスト・イエスの中で、罪と死の法則から、わたしを解放したからです。

ローマ 8:10 しかし、キリストがあなたがたの中におられるなら、体は罪のゆえに死んでいても、霊は義のゆえに命です。

C. バプテスマには二つの面、すなわち、見える面と見えない面があります :

1. 見える面は水によるものであって、見えない面は聖霊によるものです——使徒 2:38, 41. 10:44-48。

使徒 2:38 すると、ペテロは彼らに言った、「悔い改めなさい。そして、あなたがたの罪が赦されるために、イエス・キリストの御名の上にバプテスマされなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊を賜物として受けます。

使徒 2:41 そこで、彼の言を受け入れた人たちは、バプテスマされた。その日に、約三千人が加えられた。

使徒 10:44 ペテロがまだこれらの言葉を語っているうちに、聖霊が、その言を聞いているすべての人の上を下った。

使徒 10:45 そして割礼の信者で、ペテロと同行していた者はみな、聖霊が賜物として異邦人の上にも注がれたのを見て驚いた。

使徒 10:46 彼らは異邦人が異言で語り、神を大きく表現するのを聞いたからである。そこでペテロは答えた、

使徒 10:47 「だれが水を止めて、この人たちがバプテスマされないようにすることができるでしょうか？ 彼らもわたしたちと同じように聖霊を受けたのです」。

使徒 10:48 そして、ペテロはイエス・キリストの御名の中でバプテスマされるようにと、彼らに命じた。それから、彼らはペテロに数日の間、滞在するように願った。

2. その霊による見えない面がなければ、水による見える面はむなししいです。水による見える面がなければ、その霊による見えない面は抽象的であり、実行上のものではありません。両方とも必要です。

D. 三一の神の中へとバプテスマされることは、キリストの中へとバプテスマされることです——ガラテヤ 3:27 :

ガラ 3:27 なぜなら、キリストの中へとバプテスマされた者はみな、キリストを着たからです。

1. わたしたちが神の子たちであるのは、わたしたちがキリストの中にいるからです。わたしたちがキリストの中にいるのは、わたしたちがキリストの中へとバプテスマされたからです——ローマ 8:10, 14. ガラテヤ 3:26. 4:7.

ローマ 8:10 しかし、キリストがあなたがたの中におられるなら、体は罪のゆえに死んでいても、霊は義のゆえに命です。

ローマ 8:14 なぜなら、神の霊によって導かれている者はみな、神の子たちであるからです。

ガラ 3:26 あなたがたはみな、キリスト・イエスにある信仰を通して、神の子たちであるのです。

ガラ 4:7 ですから、あなたはもはや奴隷ではなく子です。またもし子であるなら、神を通して相続人でもあるのです。

2. キリストの中へとバプテスマされることは、キリストの中にいる道です——3:27.

ガラ 3:27 なぜなら、キリストの中へとバプテスマされた者はみな、キリストを着たからです。

3. わたしたちはキリストの中へとバプテスマされたので、今や彼との有機的な結合を享受しています。それはわたしたちの全存在を造り変えることができます——ローマ 12:2.

ローマ 12:2 またこの時代にかたどられてはいけません。むしろ、思いが新しくされることによって造り変えられなさい。それは、何が神のみこころであるか、すなわち何が善であって、喜ばれ、完全なものであるかを、あなたがたがわきまえるようになるためです。

4. ガラテヤ第 3 章の終わりでパウロが、キリストの中へとバプテスマされて、キリストを着ることについての言葉で結んでいることは意義深いです——27 節。

ガラ 3:27 なぜなら、キリストの中へとバプテスマされた者はみな、キリストを着たからです。

5. パウロがバプテスマについての言葉で結んでいるという事実が示していることは、わたしたちがキリストの中へとバプテスマされ、キリストを着ることによってのみ、この章で取り扱われていることを経験することができるということです——27 節。

ガラ 3:27 なぜなら、キリストの中へとバプテスマされた者はみな、キリストを着たからです。

6. キリストの中へとバプテスマされた者はみな、キリストを着ました——27 節。

ガラ 3:27 なぜなら、キリストの中へとバプテスマされた者はみな、キリストを着たからです。

7. わたしたちはキリストの中へとバプテスマされたので、今やわたしたちを覆うキリストを持っています。

8. 一方で、バプテスマにおいて、わたしたちはキリストの中へと浸し込まれています。もう一方で、バプテスマにおいて、わたしたちはキリストを着ています。

9. わたしたちの多くは、わたしたちがキリストの中へとバプテスマされていることと、彼をわたしたちの衣服、わたしたちのおおいとして着ていることとを、力強く証しすることができます——27 節。

ガラ 3:27 なぜなら、キリストの中へとバプテスマされた者はみな、キリストを着たからです。

メッセージ 4

新しい夫

聖書：ローマ 7:2-6

- ローマ 7:2 結婚している女は、夫が活着ている間は、律法によって自分の夫に縛られていますが、もし夫が死ねば、夫に関する律法から解放されます。
- ローマ 7:3 ですから、夫が活着ている間に別の男に結び付くなら、彼女は淫婦と呼ばれますが、もし夫が死ねば、彼女はその律法から解かれるので、別の男に結び付いても、淫婦とはなりません。
- ローマ 7:4 こういふわけで、わたしの兄弟たちよ、あなたがたもキリストの体を通して、律法に対して死んでいるのです。それは、あなたがたが別の方、すなわち、死人の中から復活させられた方に結び付いて、わたしたちが神に対して実を結ぶためです。
- ローマ 7:5 といふのは、わたしたちが肉の中にあつた時、律法を通して活動していた罪の激情は、わたしたちの肢体の中で働いて、死に至る実を結ばせていたからです。
- ローマ 7:6 しかし、わたしたちは縛られていたものに死んだので、今や律法から解放されました。その結果、わたしたちは文字の古さの中ではなく、霊の新しさの中で仕えているのです。

I. キリストは新しい夫です——ローマ 7:2-6 :

- ローマ 7:2 結婚している女は、夫が活着ている間は、律法によって自分の夫に縛られていますが、もし夫が死ねば、夫に関する律法から解放されます。
- ローマ 7:3 ですから、夫が活着ている間に別の男に結び付くなら、彼女は淫婦と呼ばれますが、もし夫が死ねば、彼女はその律法から解かれるので、別の男に結び付いても、淫婦とはなりません。
- ローマ 7:4 こういふわけで、わたしの兄弟たちよ、あなたがたもキリストの体を通して、律法に対して死んでいるのです。それは、あなたがたが別の方、すなわち、死人の中から復活させられた方に結び付いて、わたしたちが神に対して実を結ぶためです。
- ローマ 7:5 といふのは、わたしたちが肉の中にあつた時、律法を通して活動していた罪の激情は、わたしたちの肢体の中で働いて、死に至る実を結ばせていたからです。
- ローマ 7:6 しかし、わたしたちは縛られていたものに死んだので、今や律法から解放されました。その結果、わたしたちは文字の古さの中ではなく、霊の新しさの中で仕えているのです。
- A. 再生された存在として、男の信者も女の信者もキリストが彼らの夫であり、そして彼らは彼の妻の一部です。
- B. 眞のクリスチャンはみな、キリストが彼らの夫です。しかし、残念なことに、多くの者は、彼を夫として知っていません。

II. わたしたちの古い人、古い夫は、十字架につけられました :

A. ローマ第7章2節から4節前半は、二人の夫を見せています :

- ローマ 7:2 結婚している女は、夫が活着ている間は、律法によって自分の夫に縛られていますが、もし夫が死ねば、夫に関する律法から解放されます。
- ローマ 7:3 ですから、夫が活着ている間に別の男に結び付くなら、彼女は淫婦と呼ばれますが、もし夫が死ねば、彼女はその律法から解かれるので、別の男に結び付いても、淫婦とはなりません。
- ローマ 7:4 こういふわけで、わたしの兄弟たちよ、あなたがたもキリストの体を通して、律法に対して死んでいるのです。それは、あなたがたが別の方、すなわち、死人の中から復活させられた

方に結び付いて、わたしたちが神に対して実を結ぶためです。

1. 第一の夫、古い夫は、第6章6節で述べられている古い人であり、キリストと共に十字架につけられました。

ローマ 6:6 わたしたちは次のことを知っています。わたしたちの古い人が彼と共に十字架につけられたのは、罪の体が無効にされて、わたしたちがもはや、罪に奴隷として仕えることがないためです。

2. 第二の夫、新しい夫は、第7章2節から4節で述べられており、それはキリストです。

ローマ 7:2 結婚している女は、夫が活着している間は、律法によって自分の夫に縛られています。もし夫が死ねば、夫に関する律法から解放されます。

ローマ 7:3 ですから、夫が活着している間に別の男に結び付くなら、彼女は淫婦と呼ばれますが、もし夫が死ねば、彼女はその律法から解かれるので、別の男に結び付いても、淫婦とはなりません。

ローマ 7:4 こういうわけで、わたしの兄弟たちよ、あなたがたもキリストの体を通して、律法に対して死んでいるのです。それは、あなたがたが別の方、すなわち、死人の中から復活させられた方に結び付いて、わたしたちが神に対して実を結ぶためです。

B. わたしたちの古い人、すなわちわたしたちの古い夫は、キリストと共に十字架につけられたので、わたしたちは彼の律法から解放されており、そして新しい夫、すなわち、永遠に活着している方であるキリストに結合されています。

C. 信者として、わたしたちは二つの身分を持っています：

1. 第一のものは、墮落した古い人としてのわたしたちの古い身分です。この古い人は、神に依存する妻という本来の地位を捨てて、夫またかしらという思い上がった地位を取って、神から独立しています。
2. 第二のものは、再生された新しい人としてのわたしたちの新しい身分です。この新しい人は、神に対する真の妻としての、わたしたちの本来の正しい地位へと回復されており、神に依存し、神をわたしたちのかしらとしています——イザヤ 54:5。 I コリント 11:3。

イザヤ 54:5 あなたの造り主はあなたの夫であり、万軍のエホバが彼の御名だからである。イスラエルの聖なる方はあなたの贖い主であり、全地の神と呼ばれる。

I コリ 11:3 あなたがたに知ってもらいたいのですが、キリストはあらゆる人のかしらであり、男は女のかしらであり、神はキリストのかしらです。

3. わたしたちはもはや古い夫という身分を持っていません。なぜなら、わたしたちは十字架につけられたからです。
4. わたしたちは今や正しい妻という新しい身分だけを持っています。その中でわたしたちはキリストをわたしたちの夫としています。そしてわたしたちはもはや古い人にしたがって生きるべきではありません。すなわち、もはや古い人をわたしたちの夫とするべきではありません。

D. 律法は、古い夫（古い人）のために意図され、古い夫（古い人）に対して与えられたので、古い人の死はまた、キリストの体を通してわたしたちを律法に対して死なせました。

III. わたしたちの古い人はキリストの体を通して、律法に対して十字架につけられました。それは、わたしたちが別の夫、すなわち死人の中から復活させられたキリストと結婚するためです——ローマ 7:4 前半：

ローマ 7:4 こういうわけで、わたしの兄弟たちよ、あなたがたもキリストの体を通して、律法に対して死んでいるのです。それは、あなたがたが別の方、すなわち、死人の中から復活させられた方

に結び付いて、わたしたちが神に対して実を結ぶためです。

- A. この「結合」が示していることは、妻としてのわたしたちの新しい身分において、わたしたちがキリストの復活の中で、パースン、名前、命、存在において復活のキリストと有機的な結合を持っているということです。今や、わたしたちは新しい夫であるキリストと結婚しています——Ⅱコリント 11:2。

Ⅱコリ 11:2 わたしは神のねたみをもって、あなたがたをねたんでいます。なぜなら、あなたがたを清純な処女としてキリストにささげるために、一人の夫に婚約させたからです。

- B. キリストはわたしたちの夫ですから、わたしたちは彼に依存し、彼をわたしたちのかしらとしなければなりません——エペソ 5:23 :

エペソ 5:23 なぜなら、夫は妻のかしらだからです。それは、キリストが召会のかしらであって、彼ご自身がからだの救い主であるようにです。

1. キリストをわたしたちの夫とすることの意味は、わたしたちであるすべて、わたしたちが持っているすべて、わたしたちが行なうすべてを終結させて、あらゆることにおいて彼に信頼するということです。
2. キリストをわたしたちの夫とすることの意味はまた、わたしたちがキリストの中へと信じるということです。
3. わたしたちは、もはや自分自身によって生きるべきではなく、キリストによって生きるべきです。わたしたちは、キリストにわたしたちに代わって生きていただかなければなりません。
4. わたしたちはもはや夫ではありません。古い人としてのわたしたちは十字架につけられました。今やキリストがわたしたちの夫です。

- C. キリストは、わたしたちのかしらであるだけでなく、わたしたちのパースンとわたしたちの命でもあります——コロサイ 3:4。

コロ 3:4 わたしたちの命なるキリストが現される時、あなたがたも、彼と共に栄光のうちに現されます。

- D. 一人の人が三一の神の中へと信じてバプテスマされる時、彼は別のパースンと関係を持つようになります。すなわち、彼は別のパースン、キリストと結婚します。

IV. 妻として、わたしたちは神に対して実を結びます——ローマ 7:4 後半 :

ローマ 7:4 こういうわけで、わたしの兄弟たちよ、あなたがたもキリストの体を通して、律法に対して死んでいるのです。それは、あなたがたが別の方、すなわち、死人の中から復活させられた方に結び付いて、わたしたちが神に対して実を結ぶためです。

- A. わたしたちは復活の中において、神に対して生きるとき、神に対して実を結びます。
- B. 再生された人として、妻として、わたしたちは神に対して実を結びます。これが意味することは、わたしたちの行なうあらゆることが、今や神と関係があるということです。
- C. ここに、死と神との間の鮮やかな対比があります。
- D. 「神に対して実を結ぶ」という句は、神が実として生み出されることを意味します :

1. こういうわけで、わたしたちであるすべてとわたしたちの行なうすべては、生ける神でなければなりません。
2. わたしたちは神を生み出して、神のあふれ流れとしなければなりません。このようにしてわたしたちは、わたしたちの実としての生ける神を持ち、神に対して実を結ぶようになります。

- V. わたしたちは、縛られていた律法に対して死にました。それは、わたしたちが律法から解放されるためです。わたしたちは、妻また新しい人として、もはや律法の下にいません——ローマ 7:6 :

ローマ 7:6 しかし、わたしたちは縛られていたものに死んだので、今や律法から解放されました。その結果、わたしたちは文字の古さの中ではなく、霊の新しさの中で仕えているのです。

A. 律法は神を描写し、定義しています——レビ 19:2。

レビ 19:2 「イスラエルの子たちの全集団に語って言いなさい、『あなたがたは聖でなければならぬ。なぜなら、エホバ・あなたがたの神、わたしは聖だからである。』

B. こういうわけで、律法は堕落した人に対して、多くの要求と規定を持っています。そして、そうすることによって、律法は罪を罪として識別し、人を罪の認識へと導きます——ローマ 3:20. 4:15. 5:20。

ローマ 3:20 なぜなら、律法の行ないによっては、いかなる肉も、神の御前に義とされないので、律法によっては、罪の明確な自覚があるだけです。

ローマ 4:15 なぜなら、律法は激怒をもたらすからです。しかし、律法のないところには、違反もないのです。

ローマ 5:20 律法が入り込んできたのは、違犯が増し加わるためです。ところが、罪が増し加わったところには、恵みもますます満ちあふれました。

C. このようにして、人は律法によって暴露され、征服されます——3:19。

ローマ 3:19 さて、律法が言っている事柄は何であれ、律法の下にある人々に対して語っていることを、わたしたちは知っています。それはすべての口がふさがれて、世の人全体が神の裁きに服するためです。

VI. 妻としてわたしたちはまた、文字の古さの中ではなく、霊の新しさの中で主に仕えるべきです——ローマ 7:6 :

ローマ 7:6 しかし、わたしたちは縛られていたものに死んだので、今や律法から解放されました。その結果、わたしたちは文字の古さの中ではなく、霊の新しさの中で仕えているのです。

A. 第 6 章 4 節には、命の新しさがあり、それはわたしたちの生活のためです。第 7 章 6 節には、霊の新しさがあり、それはわたしたちの奉仕のためです :

ローマ 6:4 こういうわけで、わたしたちは彼の死の中へとバプテスマされることを通して、彼と共に葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光を通して死人の中から復活させられたように、わたしたちも命の新しさの中を歩くためです。

ローマ 7:6 しかし、わたしたちは縛られていたものに死んだので、今や律法から解放されました。その結果、わたしたちは文字の古さの中ではなく、霊の新しさの中で仕えているのです。

1. 命の新しさは、わたしたちがキリストの復活と結合されることからやって来るものであり、わたしたちの日常生活の歩みのためです。

2. 霊の新しさは、わたしたちが律法から解放されて、復活したキリストに結合されることからやって来るものであり、神に対するわたしたちの奉仕のためです。

3. 霊の新しさも命の新しさも、古い人が十字架につけられた結果です。

B. 命の新しさも霊の新しさも、その霊と関係があります :

1. 命の新しさは、復活の中にあるキリストご自身と関係があり、彼は命を与える霊です—— I コリント 15:45 後半。

I コリ 15:45 そこで、「最初の人、アダムは、生きた魂と成った」と書かれていますが、最後のアダムは、命を与える霊と成ったのです。

2. 「霊の新しさ」という句の中の「霊」は、わたしたちの再生された人の霊を指しており、その中にその霊としての主が住んでいます—— II テモテ 4:22 :

Ⅱ テモ 4:22 主があなたの霊と共におられますように。恵みがあなたと共にありますように。

- a. わたしたちは霊の新しさの中で仕えることができます。なぜなら、神はわたしたちの霊を更新してくださったからです。
 - b. わたしたちの再生された霊に関するあらゆることは、新しいです。
 - c. わたしたちの再生された霊は、新しさの源です。なぜなら、主、神の命、聖霊は、わたしたちの再生された霊の中におられるからです。
 - d. わたしたちの再生された霊の中にあるあらゆるものは、新しいです。わたしたちの再生された霊の中には、新しさだけがあります。
- C. わたしたちが認識する必要のあることは、わたしたちが新しい人として、古い人の律法から解放されており、わたしたちの新しい夫、復活したキリストに結婚させられているということです。それはわたしたちが神に対して実を結び、霊の新しさの中で主に仕えるためです。

メッセージ 5

内住するキリスト

聖書：ローマ 8:9-11, 28-29

- ローマ 8:9 しかし、確かに神の霊があなたがたの中に住んでいるなら、あなたがたは肉の中にいるのではなく、霊の中にいるのです。もしだれでもキリストの霊を持っていないなら、その人はキリストのものではありません。
- ローマ 8:10 しかし、キリストがあなたがたの中におられるなら、体は罪のゆえに死んでいても、霊は義のゆえに命です。
- ローマ 8:11 そして、イエスを死人の中から復活させた方の霊が、あなたがたの中に住んでいるなら、キリストを死人の中から復活させた方は、あなたがたの中に住んでいる彼の霊を通して、あなたがたの死ぬべき体にも、命を与えてくださいます。
- ローマ 8:28 また神を愛する者、すなわち、彼の目的にしたがって召されている者たちには、すべてが共に働いて益となることを、わたしたちは知っています。
- ローマ 8:29 なぜなら、神はあらかじめ知っておられた者たちを、御子のかたちに同形化しようと、あらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの間で長子となるためです。

I. ローマ第8章は全聖書の焦点また宇宙の中心であると考えられます。こういうわけで、わたしたちはローマ第8章を経験しているなら、宇宙の中心にいるのです。

II. ローマ第8章は教理的な章ではなく、経験的な章です。それは三一の教理について語っているのではなく、クリスチャン生活の経験における三一について語っています。

III. ローマ第8章は、信者たちの生活のために、命の霊の法則としての手順を経た三一の神が神聖な命を信者たちに与えることを啓示しています——ローマ 8:2, 6, 10-11, 26-29。

ローマ 8:2 なぜなら、命の霊の法則が、キリスト・イエスの中で、罪と死の法則から、わたしを解放したからです。

ローマ 8:6 肉に付けた思いは死ですが、霊に付けた思いは命と平安です。

ローマ 8:10 しかし、キリストがあなたがたの中におられるなら、体は罪のゆえに死んでいても、霊は義のゆえに命です。

ローマ 8:11 そして、イエスを死人の中から復活させた方の霊が、あなたがたの中に住んでいるなら、キリストを死人の中から復活させた方は、あなたがたの中に住んでいる彼の霊を通して、あなたがたの死ぬべき体にも、命を与えてくださいます。

ローマ 8:26 さらに、同じように、その霊もわたしたちの弱さを担って助けてくださいます。なぜなら、わたしたちはどのように祈ったらよいかわからないのですが、その霊自ら言い難いうめきをもって、わたしたちのためにとりなしてくださるからです。

ローマ 8:27 心を探る方は、その霊の思いが何であるかを知っておられます。なぜなら、彼は神にしたがって、聖徒たちのためにとりなしてくださるからです。

ローマ 8:28 また神を愛する者、すなわち、彼の目的にしたがって召されている者たちには、すべてが共に働いて益となることを、わたしたちは知っています。

ローマ 8:29 なぜなら、神はあらかじめ知っておられた者たちを、御子のかたちに同形化しようと、あらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの間で長子となるためです。

IV. ローマ第8章は、三一の神の究極的完成としてのすべてを含む命を与える霊に関してです。この

霊は、わたしたちを命、性質、表現において、キリストと完全に同じにならせます。これがローマ第8章です。

V. 「確かに神の霊があなたがたの中に住んでいるなら、あなたがたは肉の中にいるのではなく、霊の中にいるのです」——ローマ 8:9 前半：

ローマ 8:9　　しかし、確かに神の霊があなたがたの中に住んでいるなら、あなたがたは肉の中にいるのではなく、霊の中にいるのです。もしだれでもキリストの霊を持っていないなら、その人はキリストのものではありません。

A. この章がわたしたちに明らかにしているのは、どのようにして三一の神、すなわち、父（15節）、子（3, 29, 32節）、霊（9, 11, 13-14, 16, 23, 26節）がご自身を命として（2, 6, 10, 11節）、三部分（霊、魂、体）から成る人であるわたしたちの中へと分与し、わたしたちを彼の子たちとならせ（14-15, 19, 23, 29, 17節）、キリストのからだを構成するかということ（12:4-5）。

ローマ 8:15　　あなたがたは、再び恐れへと至らせる奴隷の霊を受けたのではなく、子たる身分の霊を受けたのであり、この霊の中で、わたしたちは「アバ、父よ！」と叫ぶのです。

ローマ 8:3　　律法が肉のゆえに弱くて、なし得なかったので、神は、ご自身の御子を罪の肉の様で、罪のために遣わし、肉において罪を罪定めされました。

ローマ 8:29　　なぜなら、神はあらかじめ知っておられた者たちを、御子のかたちに同形化しようと、あらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの間で長子となるためです。

ローマ 8:32　　ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべてのために御子を渡された方が、どうして彼と共に、万物を無代価でわたしたちに賜わないことがあるでしょうか？

ローマ 8:9　　しかし、確かに神の霊があなたがたの中に住んでいるなら、あなたがたは肉の中にいるのではなく、霊の中にいるのです。もしだれでもキリストの霊を持っていないなら、その人はキリストのものではありません。

ローマ 8:11　　そして、イエスを死人の中から復活させた方の霊が、あなたがたの中に住んでいるなら、キリストを死人の中から復活させた方は、あなたがたの中に住んでいる彼の霊を通して、あなたがたの死ぬべき体にも、命を与えてくださいます。

ローマ 8:13　　なぜなら、もし肉にしたがって生きるなら、あなたがたは死ななければならないからです。しかし、その霊によって体の行ないを死に渡すなら、あなたがたは生きています。

ローマ 8:14　　なぜなら、神の霊によって導かれている者はみな、神の子たちであるからです。

ローマ 8:16　　その霊ご自身、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子供たちであることを、証ししてくださいます。

ローマ 8:23　　そればかりではなく、その霊の初穂を持つわたしたち自身も、自らの内でうめきながら、子たる身分、すなわち、わたしたちの体の贖いを、熱心に待ち望んでいるのです。

ローマ 8:26　　さらに、同じように、その霊もわたしたちの弱さを担って助けてくださいます。なぜなら、わたしたちはどのように祈ったらよいかわからないのですが、その霊自ら言い難いうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからです。

ローマ 8:2　　なぜなら、命の霊の法則が、キリスト・イエスの中で、罪と死の法則から、わたしを解放したからです。

ローマ 8:6　　肉に付けた思いは死ですが、霊に付けた思いは命と平安です。

ローマ 8:10　　しかし、キリストがあなたがたの中におられるなら、体は罪のゆえに死んでいても、霊は義のゆえに命です。

ローマ 8:11　そして、イエスを死人の中から復活させた方の霊が、あなたがたの中に住んでいるなら、キリストを死人の中から復活させた方は、あなたがたの中に住んでいる彼の霊を通して、あなたがたの死ぬべき体にも、命を与えてくださいます。

ローマ 8:14　なぜなら、神の霊によって導かれている者はみな、神の子たちであるからです。

ローマ 8:15　あなたがたは、再び恐れへと至らせる奴隷の霊を受けたのではなく、子たる身分の霊を受けたのであり、この霊の中で、わたしたちは「アバ、父よ！」と叫ぶのです。

ローマ 8:19　被造物は切なる期待をもって、神の子たちの出現を熱心に待ち望んでいます。

ローマ 8:23　そればかりではなく、その霊の初穂を持つわたしたち自身も、自らの内でうめきながら、子たる身分、すなわち、わたしたちの体の贖いを、熱心に待ち望んでいるのです。

ローマ 8:29　なぜなら、神はあらかじめ知っておられた者たちを、御子のかたちに同形化しようと、あらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの間で長子となるためです。

ローマ 8:17　そしてもし子供であるなら、相続人でもあります。すなわち、わたしたちが彼と共に栄光化されるために、彼と共に苦しむなら、わたしたちは神の相続人であり、またキリストと共同の相続人です。

ローマ 12:4　一つの体の中には多くの肢体があり、そしてすべての肢体が同じ機能を持っていないように、

ローマ 12:5　わたしたちも数は多いのですが、キリストの中で一つからだであり、そして各自は互いに肢体なのです。

B. わたしたちが三一の神の霊にわたしたちの中でご自身のホームを造っていただくなら、わたしたちの経験においてわたしたちは霊の中におり、もはや肉の中にはいません。

C. わたしたちがそのようであるなら、三一の神はその霊としてわたしたちの霊から (8:10)、わたしたちの思い (6 節) によって代表されるわたしたちの魂の中へと拡大し、最終的に彼はわたしたちの死ぬべき体にさえ命を与えます (11 節)。

ローマ 8:10　しかし、キリストがあなたがたの中におられるなら、体は罪のゆえに死んでいても、霊は義のゆえに命です。

ローマ 8:6　肉に付けた思いは死ですが、霊に付けた思いは命と平安です。

ローマ 8:11　そして、イエスを死人の中から復活させた方の霊が、あなたがたの中に住んでいるなら、キリストを死人の中から復活させた方は、あなたがたの中に住んでいる彼の霊を通して、あなたがたの死ぬべき体にも、命を与えてくださいます。

Ⅶ. 「もしだれでもキリストの霊を持っていないなら、その人はキリストのものではありません」 — —ローマ 8:9 後半：

ローマ 8:9　しかし、確かに神の霊があなたがたの中に住んでいるなら、あなたがたは肉の中にいるのではなく、霊の中にいるのです。もしだれでもキリストの霊を持っていないなら、その人はキリストのものではありません。

A. このことは、わたしたちがキリストのものであることが彼の霊にかかっていることを示しています。

B. もしキリストの霊がないなら、あるいはもしキリストがその霊でないなら、わたしたちがキリストに結合されてキリストに属することはできません。

C. しかしながら、キリストはその霊であり (Ⅱコリント 3:17)、彼はわたしたちの霊の中におられ (Ⅱテモテ 4:22)、わたしたちと一つ霊です (Ⅰコリント 6:17)。

Ⅱコリ 3:17　そして主はその霊です。そして主の霊のあるところには、自由があります。

Ⅱテモ 4:22 主があなたの霊と共におられますように。恵みがあなたと共にありますように。

Ⅰコリ 6:17 しかし、主に結合される者は、主と一つ霊になります。

D. 神の霊とキリストの霊は二つの霊ではなく、一つ霊です。

E. パウロはこれらの称号を交換的に用いています。それが示しているのは、ローマ第 8 章 2 節の内住する命の霊が、三一の神全体のすべてを含む命を与える霊であるということです。

ローマ 8:2 なぜなら、命の霊の法則が、キリスト・イエスの中で、罪と死の法則から、わたしを解放したからです。

F. 9 節で神、その霊、キリストがすべて述べられています。

ローマ 8:9 しかし、確かに神の霊があなたがたの中に住んでいるなら、あなたがたは肉の中のものではなく、霊の中にあるのです。もしだれでもキリストの霊を持っていないなら、その人はキリストのものではありません。

G. わたしたちの中におられるのは三者ではありません。ただひとり、すなわち、三一の神の三一の霊がおられます——ヨハネ 4:24. Ⅱコリント 3:17. ローマ 8:11。

ヨハネ 4:24 神は霊であるから、彼を礼拝する者は、霊と真実の中で礼拝しなければならない」。

Ⅱコリ 3:17 そして主はその霊です。そして主の霊のあるところには、自由があります。

ローマ 8:11 そして、イエスを死人の中から復活させた方の霊が、あなたがたの中に住んでいるなら、キリストを死人の中から復活させた方は、あなたがたの中に住んでいる彼の霊を通して、あなたがたの死ぬべき体にも、命を与えてくださいます。

VII. 「しかし、キリストがあなたがたの中におられるなら、体は罪のゆえに死んでいても、霊は義のゆえに命です」——ローマ 8:10 :

ローマ 8:10 しかし、キリストがあなたがたの中におられるなら、体は罪のゆえに死んでいても、霊は義のゆえに命です。

A. 「キリストがあなたがたの中におられる」は、ローマ人への手紙における極めて重要な点です：

1. 第 3 章で、キリストは十字架におられ、ご自身の血を流して、わたしたちを贖いました。
2. 第 4 章で、キリストは復活の中にあります。
3. 第 6 章で、わたしたちはキリストの中にいます。
4. 第 8 章で、キリストはわたしたちの中のその霊です。

B. わたしたちが主を信じる前、内側のわたしたちの霊は死んでおり、外側のわたしたちの体は生きていました。

C. 今やわたしたちの中にはキリストがおられるので、外側のわたしたちの体は罪のゆえに死んでいますが、内側のわたしたちの霊は義のゆえに命です。

D. キリストが命としてわたしたちの中へと入って来ることは、わたしたちの体の死の状態を暴露します。

E. わたしたちの霊の中には、義としての霊なるキリストがおられ、命という結果になります。しかし、わたしたちの肉の中には罪としてのサタンがおり、死という結果になります。

F. 人の墮落を通して、罪が死をもたらし、人の体に入り、それを神の事柄において死なせ、無力にしました：

1. 神は肉体において罪を罪定めしましたが (3 節)、この罪は、人の墮落した体から引き抜かれたり、根絶されたりしませんでした。

ローマ 8:3 律法が肉のゆえに弱くて、なし得なかったので、神は、ご自身の御子を罪の肉の形で、罪のために遣わし、肉において罪を罪定めされました。

2. このゆえに、わたしたちの体は依然として死んでいます。

G. ローマ第8章10節の霊は、再生された人の霊であり、墮落した人の体と対照的です。

ローマ 8:10 しかし、キリストがあなたがたの中におられるなら、体は罪のゆえに死んでいても、霊は義のゆえに命です。

H. 霊が義のゆえに命であることは、わたしたちの人の霊を指しているのであって、神の霊を指しているわけではありません。

I. わたしたちの霊は再生されているだけでなく、生かされており、命となっています：

1. わたしたちがキリストを信じたとき、彼は神聖な命の霊としてわたしたちの霊の中へと入って来て、ご自身をわたしたちの霊とミングリングしました。

2. それによって、二つの霊は一つ霊となりました——I コリント 6:17。

I コリ 6:17 しかし、主に結合される者は、主と一つ霊になります。

J. 神の義認において、わたしたちは義を受け入れました。義は、わたしたちの存在の中へと、すなわち、わたしたちの霊の中へと入る三一の神ご自身です——ローマ 8:10：

ローマ 8:10 しかし、キリストがあなたがたの中におられるなら、体は罪のゆえに死んでいても、霊は義のゆえに命です。

1. この義は命という結果になります——5:18, 21。

ローマ 5:18 こういうわけで、一度の違犯を通してすべての人に罪定めが及んだように、一度の義なる行為を通して、すべての人に命の義認がもたらされたのです。

ローマ 5:21 それは、罪が死の中で王として支配したように、恵みもまた義を通して王として支配し、わたしたちの主イエス・キリストを通して永遠の命に至るためです。

2. 今やわたしたちの霊は生きてだけでなく、命です。

VIII. 「イエスを死人の中から復活させた方の霊が、あなたがたの中に住んでいるなら、キリストを死人の中から復活させた方は、あなたがたの中に住んでいる彼の霊を通して、あなたがたの死ぬべき体にも、命を与えてくださいます」——ローマ 8:11：

ローマ 8:11 そして、イエスを死人の中から復活させた方の霊が、あなたがたの中に住んでいるなら、キリストを死人の中から復活させた方は、あなたがたの中に住んでいる彼の霊を通して、あなたがたの死ぬべき体にも、命を与えてくださいます。

A. この節には三一の神全体があります。それは「イエスを死人の中から復活させた方」、「キリスト」、「あなたがたの中に住んでいる彼の霊」です。

B. キリストがご自身を信者たちの中へと分与していることは、「あなたがたの死ぬべき体にも、命を与えてくださいます」という言葉によって示されているように、分与がわたしたちの存在の中心で起こるだけでなく、円周まで、すなわちわたしたちの全存在にまで到達することを示しています。

C. 「命を与えてくださいます」が示しているのは、神聖ないやしではなく、わたしたちが神の霊にわたしたちの中にご自身のホームを造っていただき、神聖な命をもってわたしたちの全存在に浸透していただいた結果です。

D. こうして、彼はご自身の命をわたしたちの死ぬべき、死につつまある体を与えて、それをいやすだけでなく、それを生かして、ご自身のみこころを遂行させます。